

時間ハ何時ニテモ仲買人タルヲ得ヘシト雖モ仲買人トナリタルモハ仲買人ノ規則ヲ遵守スヘシ而シテ賣買上ニ於テハ之ヲ仲買人ト稱ス可シ

第三章 仲買人ノ事

第十五條 取引所ノ規定ニ從ヒ相當ノ身元金ヲ差入レ取引所ノ承認ヲ得テ自ラ株式賣買ノ取引ナスモノヲ其取引所ノ仲買人ト稱ス可シ  
但仲買人ニ於テ假令他人ノ依頼ヲ受ケ賣買セシモノト雖モ取引所ニ於テハ都テ仲買人ノ賣買シタルモノト看做ス可シ

第十六條 仲買人ノ身元金ハ少ナクトモ百圓以上タルヘシ

第十七條 仲買人ハ丁年者ニ限ルヘシ且ツ一度身代限ノ處分ヲ受ケタル者ハ其負債ノ義務ヲ免レタル實證アルニ非サレハ入社ヲ許サ、ルヘシ

第四章 役員ノ事

第十八條 取引所ノ役員ト稱スルモノハ左ノ如シ  
頭取

肝煎

其他支配人書記方計算方等ノ名義ヲ以テ役員ヲ定ムルハ取引所ノ便宜ニ任ス

第十九條 取引所ノ肝煎ハ少クトモ五名以上ト定メ株主ノ總會ニ於テ其取引所ノ規定ニ從ヒ現ニ三十株以上ヲ所持スル株主中ヨリ之ヲ撰定シ又其肝煎

株式取引條例

ハ同僚中ヨリ頭取一人ヲ推舉スヘシ而シテ支配人  
ヨリ以下ノ諸役人ハ頭取并ニ肝煎ノ衆議ニ依リ株  
主又ハ株主外ヨリ之ヲ撰任スヘシ

第二十條 取引所役員ノ在職年限ハ一个年タルヘシ  
第二十一條 頭取ハ取引所ノ事務ヲ總轄シ取引所一  
切ノ責ニ任ス可シ

第二十二條 頭取肝煎ハ其仲買人ノ差違レヲ解キ違  
約者ヲ處分スルノ責任アリトス

第二十三條 取引所諸役員職務上ノ責任權限等ハ其  
取引所ニ於テ適當ノ規程ヲ設ケ之ヲ定款中ニ記載  
スヘシ

第五章 一般ノ規程

第二十四條 外國人ヲ取引所ノ株主并仲買人ト爲ス  
ヲ得ス

第二十五條 取引所ニ於テ株式賣買取引ヲナス者ハ  
其取引所ノ承認ヲ經タル仲買人ニ讓ルヘシ

第二十六條 取引所ニ關係アル政府ノ官吏ハ其取引  
所ノ株主タルヲ許サス

第二十七條 取引所ノ役員タルモノハ其取引所ニ於  
テ賣買本人又ハ仲買人トナルヘカラス

第二十八條 取引所ノ役員及ヒ仲買人ハ他ノ株式取  
引ヲ爲ス會社ノ役員又ハ仲買人或ハ他ノ銀行并ニ  
諸會社官許ヲ經タル役員タルヲ得ス

第二十九條 取引所ハ其營業ノタメ緊要ナル地所家

株式取引條例

屋ヲ除クノ外地所家屋ヲ所持スルヲ許サス又之ヲ  
賣買スヘカラス

第三十條 政府ニ於テ賣買ヲ許シタル諸公債証書及  
ヒ政府ノ條例ヲ遵奉シテ發行シタル銀行并諸會社  
ノ株券ノ賣買ヲ除ノ外此取引所ニ於テ一切他ノ物  
件ヲ賣買シ他ノ事業ヲ營ムヘカラス

第三十一條 取引所ハ第一章第七條ニ掲ケタル營業  
保證ノ爲メ大藏省ヘ預クヘキ公債証書ヲ除クノ外  
自ラ諸公債証書諸株券等ヲ賣買シヌハ之ヲ所持ス  
ヘカラス

第三十二條 取引所ハ該證據金ヲ使用スヘカラス又  
貸附金ヲナスヘカラス

第三十三條 取引所ニ於テ違約人ヲ處分スルハ其證  
據金及ヒ身元金ヲ以テ其違約ニ依リ相手方ニ於テ  
失ヒタル利得ト蒙リタル損害トヲ償ハシムルニ止  
マルヘシ

第三十四條 取引所ハ其取引所ニ於テ株式等ノ賣買  
ヲ認許シタル銀行並諸會社ノ株式ヲ賣買スルコトノ  
依頼ヲ受ルトイヘトモ其事情ニヨリ之ヲ停止シ又  
ハ之ヲ許否スルノ權ヲ有ス

第三十五條 取引所ノ諸願伺届又ハ諸証書約定書及  
往復ノ文書等取引所一般ニ關スル事件ハ頭取肝煎  
等コソニ記名調印スヘキハ勿論ナレトモ必ラス其  
取引所ノ名ヲ署シ取引所ノ印ヲ捺スヘシ

株式取引條例

第六章 賣買取引ノ事

第三十六條 取引所ニ於テ爲ス所ノ賣買取引ハ現場

ト定期ノ二様ニ分チ必ス現物ノ受渡シヲ爲ス可シ

但三ヶ月ヨリ永キ定期ノ約定ヲナスヘカラス

第三十七條 凡取引所ニ於テ賣買ノ約定ヲナシ其定

期ニ係ルモノハ約定金高百分ノ五宛ニ下ラサル證

據金ヲ賣買双方ヨリ差入ル可シ而シテ其期限中相

庭ノ高低等ニヨリテハ追證據金等ヲ差入ルムルコ

ト得ヘシ

第三十八條 約定取引ノ期限ニ至ツテハ其品種ニ依

リ記名書替等其他受渡シノ手續ハ政府又ハ諸會社

ノ成規ニ照シ之ヲ履行スヘシ

第三十九條 約定期限内ニ於テ之ヲ轉賣スルヲ得ヘ

シト雖モ其期日ニ至レハ必ス現物ノ受渡シヲ爲ヘ

第四十條 賣買主ニ於テ諸證據金ノ差入レヲ怠リ又

ハ期限ニ至リテ其約定ヲ履行セサル者及ヒ私ニ賣

買ノ約定ヲ爲シ之ヲ公ニセサルモノ等ハ都テ之ヲ

違約人ト爲ス可シ

第七章 手数料ノ事

第四十一條 取引所ニ於テ收領スヘキ手数料ハ(賣買

リ)其賣買金高現場取引ハ千分ノ一定期取引ハ千分

ノ二宛ニ超ユヘカラス

第四十二條 手数料ハ其決算ノ時ニ至リ賣買取引ニ

關係スル他ノ債主ニ先ツテ之ヲ收受スルコトヲ得ヘ

第八章 検査ノ事

第四十三條 大藏卿ニ於テ要用ト思テスルトキハ何時ニテモ官員ヲ派遣シ或ハ其地方長官ヘ達シテ其取引所ノ業體及ヒ金銀其他諸帳簿等ヲ検査セシムルコトアルヘシ

第九章 帳簿ノ事

第四十四條 取引所ハ毎日取扱ノ事項ハ勿論金銀ノ出納等凡テ之ヲ詳明正確ニ記載シ且其簿記ノ方法ニ於テ大藏卿ノ差圖アルトキハ其指圖ニ從フヘシ

第四十五條 取引所ニ於テ製定使用スル處ノ諸帖簿

ハ其名目用法ヲ詳記シ之ヲ大藏省ヘ届出ツヘシ

第十章 諸報告ノ事

第四十六條 取引所ハ賣買實際ノ報告及金銀出納表其他役員ノ進退并株主仲買人ノ姓名等大藏卿ノ指命スル處ニ從ヒ時々報告ヲナスヘシ

第十一章 納税ノ事

第四十七條 此取引所ハ追テ政府ニ於テ制定施行スル所ノ收税規則ニ遵ヒ相當ノ税金ヲ納ムヘシ

第十二章 罰則

第四十八條 取引所ノ役員及株主并仲買人等此條例ヲ犯スカ又ハ役員タルモノ株主并仲買人ノ此條例ニ背戾シタルヲ不問ニ措キ又ハ背戾セシメタル實

證アルトキハ役員并ニ本人トモ共事ノ輕重ニ依リ  
三十圓ヨリ少ナカラス千圓ヨリ多カラサル罰金ヲ  
科スヘシ

第四十九條 検査官員ノ命ヲ拒ミ帖簿書類等ヲ差出  
サ、ルカ又ハ其疑問ニ答辨ヲ爲サ、ル者アルキハ  
頭取又ハ其主任者ニ十圓ヨリ少ナカラス五十圓ヨ  
リ多カラサル罰金ヲ科スヘシ

(参考)

明治十一年五月九日大  
藏省甲第十四號布達

今般太政官第八號ヲ以公布相成候株式取引所ノ儀ハ  
當分ノ内東京大坂ニ於テ一个所宛ニ相限リ候等ニ候  
條爲心得此旨布達候事

(参考)

明治十年十二月廿八日内務  
大藏連署甲第四十三號布達

明治七年十月第七號ヲ以テ公布相成候株式取引所及  
ヒ九年八月第五號公布米商會所ノ儀今般更ニ大藏省  
主管ニ被属候ニ付テハ從前營業ノ者并今後營業致度  
者共右營業ニ屬スル願伺届等ハ總テ從前内務省ニ差  
出シタル手續ヲ以テ自今大藏省ニ可差出此旨布達候  
事

○違式註違例條

本朝民鑑乾  
ノ卷ニ掲ク

(改正)

明治十年十一月十二日警  
視局甲第五十八號布達

註違罪目第三十條左ノ通改定候條此旨布達候事

違式註違例

第三十條 夜中無燈ニテ諸車ヲ挽ク者

(改正) 明治十年十二月廿二日  
警視局甲第七十號布達

註違罪目第三十三條左ノ通り改正候條此旨布達候事  
第卅三條 人力車挽及ヒ馬車ノ馭者強テ乘車ヲ勸  
メ過言等申掛ル者

(追加) 明治十年十二月廿七日  
警視局甲第七十三號布達

違式註違罪目左ノ通追加候條此旨布達候事  
第七十一條 猥ニ附會揚言シテ新聞紙ヲ賣リ歩行  
ク者

(改正) 明治十年十二月廿八日  
警視局甲第七十五號布達

本年甲第七十三號違式註違罰目ハ違式罪目ノ誤リ  
ニ候條此旨更ニ相達候事

(追加) 明治十一年二月十五日  
警視局甲第十三號布達

註違罪目第七十二條左ノ通追加候條此旨布達候事  
第七十二條 菓子其他ノモノヲ賭シ營業ヲナスモ

(追加) 明治十一年二月廿一日  
警視局甲第十七號布達

註違罪目左ノ通追加候條此旨布達候事  
第七十三條 神社佛閣又ハ他人ノ家屋牆壁等ニ糞  
書及ヒ張札ヲ爲ス者

違式註違條例

(改正) 明治十一年二月二十一日內務省乙第五號

達式罪目第十四條外國人ヲ無届コテ止宿セシムル者  
ト有之候處左ノ通改正可致此旨相達候事

達式罪目

第十四條 旅行免狀ヲ持タサル外國人ヲ私ニ止宿  
セシムル者

(刪除) 明治十一年三月廿二日  
警視局甲第廿四號布達

達式罪目第二十條第二十八條刪除候條此旨布達候事

(刪除) 明治十一年四月十二日警  
視局甲第三十一號布達

達式罪目第五十四條刪除候此旨布達候事

(追加) 明治十一年五月二日警  
視局甲第三十六號布達

達式罪目左ノ通り追加候條此旨布達候事

第七十四條 街上ニ於テ高聲ニ唱歌スル者

但歌舞營業ノ者ハ此限ニアラス

第七十五條 夜間十二時後歌舞音曲又ハ喧嘩シテ

他ノ安眠ヲ妨グル者

(増補) 明治十一年五月二十七  
日太政官第十四號布告

明治九年九月第十七號布告達式達式罪目第三條中無  
力ノ者ノ下(及ヒ贖金ヲ出スコトヲ肯ンセサル者)ノ十四  
字ヲ増加候條此旨布告候事



(追加) 明治十一年六月廿一日 警視局甲第四十三號布達

違式罪目第八條ヲ刪除シ街路取締規則第十八條左ノ通追加候條此旨布達候事

第十八條 下水外へ家作并孫庇等ヲ張出ス可カラ

ニ未タ下水ヲ設サル場所ニ在テハ各私有地ノ經

界ヨリ道式二尺(曲尺)迄ヲ限リ假リニ下水地ト看做

スヘシ

但シ明治七年一月第四號東京府達以前建設ニ係ルモノハ此限ニアラス

(參考) 乙 明治十一年三月二十七日 警視局第十二號ヲ以區長戶長へ達

本年甲第二十號ヲ以テ違式罪目第十四條改正布達候

ニ付テハ外國人遊歩規程内ニ於テ止宿セシメ候儀明治八年十一月八日東京府達ノ通り可相心得尤届出ノ儀ハ其都度國號人名等取調所管警視分署へ可差出若シ病氣療養ノ爲メ永ク止宿セシメ候節ハ尙日數七日毎ニ其段同所へ届出候様旅人宿渡世ノ者へ可達置此旨相達候事

但本文届出方ニ付自然本人ノ迷惑ニ不相成様注意可爲致事

(參考) 明治八年九月八日 警視廳規第千四百九十五號達

違式註違犯罪人處分ノ儀違式罪人ハ分廳註違罪人ハ各署ニ於テ處斷致來候處以來違式註違共各署ニ於テ

違式註違條例

處分可致若シ不服ノ者有之歟又ハ處分上疑條有之者等ハ註違式共分署へ送付可致此旨相達候事

(參考) 明治八年九月廿八日警視廳千六百七十四號達

違式註違處分手續書別紙ノ通改定候條此旨相達候事

別紙

第一條 違式註違ノ罪ヲ犯シ無力ニシテ贖フ能ハサル者ハ五日ノ延期ヲ與へテ完納セシム若シ親戚朋友等ノ代テ贖ハンコヲ請フ者ハ之ヲ聽ス

第二條 違式ノ罪ヲ犯シ贖罪スヘキ者無力ニシテ贖フ不能ハサルハ日數ニ折算シ士族ハ禁獄平民ハ懲役ニ處ス註違ハ拘留ニ換フ

第三條 老幼老ハ七十年以上八十年以下癡疾及ヒ幼ハ十五年未滿十年以上婦女違式ノ罪ヲ犯スハ其贖金ノ三分一ヲ科ス若シ無力ニシテ贖フ不能ハサル者ハ其日數ヲ折半シ禁獄ニ處シ士族ノ婦女ハ鎖鋼ニ換フ註違ノ贖金ハ總テ之ヲ全科ス

第四條 八十年以上十年未滿ノ者違式註違ノ罪ヲ犯スハ論スルコ勿シ

(參考) 明治八年十一月五日警視廳第七十八號達

違式註違處分手續書第五條左ノ通追加候條此旨相達候事

違式註違處分手續書

第五條 八十年以上十年未滿ノ者違式註違ノ犯罪

違式註違條例

ハ不問ニ付スト雖ハ該罪ニヨリ取揚クヘキ物品  
 ハ之ヲ沒收シ及ヒ人ニ損失ヲ蒙ラシムルハ其損  
 失ヲ償ハシムヘシ

(參考)

明治八年十一月廿五日警視  
 廳規第二千二百五十一號達

違式註違處分手續書第六條左ノ通追加候條此旨相違候事

第六條 違式罪目第七條第十條病死ニ罹ル鳥獸ノ  
 肉及贖造腐敗ノ飲食物ヲ販賣スルハ其贖金ヲ科  
 シ且其賣却代金及ヒ該品ヲモ不殘官沒シ其物品  
 ハ適宜ノ場所ニ於テ埋棄或ハ燒却スヘシ

(參考)

明治八年十二月廿七日警視  
 廳規第二千五百七十九號達

違式註違處分手續書第七條別紙ノ通追加候條此旨相  
 違候事  
 但贖金ヲ出スヘキ者無力ニシテ實決スル節ハ本廳  
 ～可伺出事

第七條 違式註違處分手續書  
 贖金ヲ科ス其無力ニシテ贖フ能ハサル者ハ實斷  
 スル左ノ例ニヨル

違 式		註 違	
贖 金	實 斷	贖 金	實 斷
一圓五十錢	懲役二十日	十二錢五厘	拘留二日
一圓四十二錢五厘	全	十九日	十一錢

違式註違條例

一圓三十五錢	全	十八日	十	錢	全	一日半
一圓二十七錢五厘	全	十七日	九	錢		
一圓二十錢	全	十六日	八	錢	全	一日
一圓十二錢五厘	全	十五日	六錢二厘五毛			
一圓五錢	全	十四日				
九十七錢五厘	全	十三日				
九十錢	全	十二日				
八十二錢五厘	全	十一日				
七十五錢	全	十日				

(參考) 明治九年一月二十二日警  
視廳規第百七十五號達

違式註違處分手續書第八條～左ノ通追加候條此旨相違候事  
但毎月處斷ノ分犯人取調表ヲ取纏メ翌月本廳第二  
局～可届出事

違式註違處分手續書

第八條 違式註違犯人ヲ拘引セシキハ取調掛主副  
兩名ヲ設ケ(主警部一名副警部補一名)拘引スル巡  
査或ハ告訴人ノ申立ヲ聞キ而シテ後犯人ヲ密問  
シ本籍並口供等ヲ別紙犯人取調表ノ書式ニ倣ヒ  
之ヲ記載シ犯人ニ讀ミ聞セ甘結ノ上ハ犯人ノ名  
ノ下ニ捺印或ハ花押ヲナサシメ罪目及ヒ贖金ノ  
高等ヲ朱字記載シ取調人並取押人等一同名下ニ

違式註違條例

檢印スヘシ  
 檢印濟ノ上ハ別紙書式ニ照シ判文ヲ野紙ニ記シ  
 警部之ヲ申渡シ其申渡書ヲ犯人ニ渡スヘシ  
 若シ犯罪ノ證據物及ヒ証據人アリテ猶ホ犯人不服  
 ノキバ証據物及ヒ証據人ノ中立書或ハ取押ヘタル  
 巡查ノ証告書ヲ以テ犯人ニ示シ處斷スルヲ得ヘシ  
 但シ犯人ニ於テ罪ヲ犯サハル証據ヲ以テ不服  
 ナ申立ル者アル時ハ伺出ツヘシ人ニ損害ヲ被  
 ラスル事アラハ犯人ヨリ相當ノ償金ヲ出サシ  
 メ微傷ヲ被ムル如キ醫員ノ中立ニヨルヘシ被  
 (損)害人ニ渡シ領收ノ証書ヲトルヘシ  
 別紙

警視第何方面第何署違犯取人調表

取調人	主	何官何誰印	取押人	何等巡查何某印
	副	何官何誰印		証據人或ハ告訴人
處斷言渡人	何官何誰印		証據人或ハ告訴人	
違式(車馬馳)	何年何月何日	何府縣何郡何村町	誰	
註違(放尿或ハ喧嘩口論)	幾人ノ同犯或ハナシ	士族或ハ平民	何	
自分儀何々ノ義ヲ犯シ候處犯狀ヲ委細書載スヘシ被見各	常署へ拘引相成候事			
右之通相違不申上候以上	何誰摺印或ハ花押			
年號月日				
(朱)註違式罪目何條ニ照シ	何ノ何某			
贖罪金何圓何拾何錢	或ハ懲役拘留何日			
損害ノ償金何圓何拾錢	被(損)害人			

違式註違條例

申渡

何府縣何大區何小區

何村何番地

何誰

其方儀何處ニ於テ何々ノ所業致候段違式(註違)罪目  
何條ニヨリ贖金何圓何拾錢申付ル

但何誰ニ對シ損害ノ償金何圓何拾錢償却スヘシ

明治何年何月何日

警視第何方面第何署 印

(參考) 明治九年一月廿八日警視  
廳規第二百九十三號達

違式註違處分手續書第九條左ノ通追加候條此旨相違候事

第九條 違式註違罪ヲ犯シ二罪以上別種類ノ罪一  
時ニ俱發スルモノハ其贖金ヲ各自ニ科スヘシト  
モハ車馬留ノ場所ヲ犯シ通行シ又便所ニ非  
トシテ放尿スル者ハ喧嘩ノ口論ヲナシ又往來ノ常  
道ニ消滅スル者ハ註違ノ贖金ヲ重シ科スルノ類  
若シ違式註違ノ罪ト刑律ノ罪ト俱發スルキハ違  
式註違ノ罪ヲ科セス裁判所ニ交付スヘシト雖モ  
其贖金ヲ追徴シ得ヘキモノハ其罪ヲ科シテ後裁  
判所ニ交付ス可シ  
但其罪ヲ科スル科セサルヲ論セス其旨ヲ該犯  
ノ假口書ニ認ムヘシ

(參考) 明治九年二月廿日警視廳規第二百三十七號達

違式註違處分手續書左ノ通追加候條此旨相違候事

第十條 違式罪目第九條春書及ヒ其類ノ器物ヲ販賣スル者アルキハ贖金ヲ科シ其物品ハ沒收シ犯人ノ目前ニ於テ破毀スヘシ

第十一條 違式罪目第十一條身體へ刺繡スル者アルキハ贖金ヲ科シ左ノ書式ニ照シ証書ヲ與フヘシ若シ禁令發行以前明治五年十一月十三日以前ニ係ル者ハ証書ノミヲ與ヘ以後衣服ヲ以テ遮蔽シ其醜體ヲ露サ、ル様申諭シ之ヲ露セシキハ違式罪目第二十二條ニ依リ處分スヘシ  
但証書ハ遺失セサル様本人へ中渡スヘシ

第何大區何小區何町何番地

何職業或ハ商

何誰

年齡

右何年何月何日身體刺繡致候ニ付違式罪目第何條ニ照シ贖罪金何圓何十錢中付者也(禁令以前身ニ施ス者ハ)右身體へ刺繡致候ニ付相糾候處禁令發行以前何年何月何日ニ係候段致查明候也  
年號月日 第何方面第何署印

第十二條 華族違註罪ヲ犯スキハ住所ヲ問糾シ名刺ヲ取リ第十九條ニヨリ家令家扶ノ内呼出シ第八條ニ照シ其贖金ヲ申渡スヘシ

違式註違條例

第十三條 勅委任官及ヒ有位ノ士民違註罪ヲ犯ス  
 キハ第十二條ニ從ヒ執事ヲ呼出シ贖金ヲ申渡ス  
 ヘシ其家族右同罪ヲ犯シ事故アリテ拘引シ難キ  
 場合ニ於テハ其住所等詳ニ問糾シテ放遣シ第十  
 九條ニ照シ本人或ハ代人ヲ呼出シ其贖金ヲ申渡  
 スヘシ

第十四條 判任官并等外吏違註罪ヲ犯スモハ直ニ  
 該署ヘ拘引スヘシト雖モ若シ至急ノ公務ヲ帶ヒ  
 タルモハ官姓名住所等ヲ詳ニ問糾シ放遣シ第十  
 九條ニ照シ退テ本人或ハ代人ヲ呼出シ其贖金ヲ  
 申渡スヘシ

第十五條 諸官省ノ雇夫郵便配達人其他至急ノ公

務ヲ帶ヒタル者途中ニ於テ違註罪ヲ犯スモハ第

十四條ニ準スヘシ

第十六條 違註犯ノ者拘引ノ上贖金所持ナキ時自  
 宅等ヨリ取寄セシコトヲ請フモハ本人ヲ該署ヘ留  
 オキ自費ヲ以テ使テ雇ヒ取寄セシムヘシ若シ未  
 覺ヲ以テ上納スヘキ旨申立ルモハ其區町用掛ヲ  
 呼出シ保証スルニ於テハ五日以内屹度上納可致  
 旨申渡スヘシ

但期限過テ上納ヤサル者ハ實斷スヘシ

第十七條 一時出京等ニテ違註罪目ヲ承知セサル  
 者ト雖モ放免スルコトヲ得ス然レモ之ヲ輕減スル  
 コトヲ得ヘシ



第十八條

華族勅奏任官呼出ス時ハ左ノ書式ニ照スヘシ

第何大區何小區何町何番地

何官位又ハ華族

華族妻子  
兄弟父母

何 誰

右何月何日第何大區何小區何町村ニ於テ何々ノ廉ヲ  
犯シ候儀ニ付推問ノ儀有之候條明(後)何日午前第何  
時家令家扶執事ノ内贖金何程損害ノ償ヒ有之ハ  
儀認ム所持ニテ當署へ出頭候様通達有之度候也

警視第何方面

年號月日

第何署印

第何大區何小區

戶長御中

一時放遣ニ追テ呼出ス書式

何官位(妻子兄弟父母)或ハ

何官省或ハ士族平民

何 誰

右何月何日第何大區何小區町ニ於テ何々ノ廉ヲ犯  
シ候儀ニ付推問ノ儀有之候條明(後)何日午前第何時  
贖金何程損害ノ償ヒ有之ハ儀認ム所持ニテ當署  
へ出頭候様通達有之度候也

警視第何方面

年號月日

第何署印

第何大區何小區

戸長御中

追テ本人事故有之節ハ代人差出不苦事

第十九條 勅委任官并華族自分車ニ乘リ註違式ノ罪ヲ犯スルハ其車夫ノ姓名宿所等ヲ聞糾シ其場ヲ放遣シ追テ呼出シ處分スヘシ

若シ夜中無燈ノ節ハ點燈セシメ提灯ヲ所持セサルキハ之ヲ求メ點燈セシメ其場ヲ放遣シ追テ呼出シ處分スヘシ

其一時雇ノ人力車夜中無燈ノ節ハ其乘客ニ下車ヲ請ヒ車夫ヲ該署ヘ拘引シ處分スヘシ

(參考) 明治九年二月廿三日警  
視廳規第五百十號達

今般規第二百三十七號達違式註違處分手續書第十二條中第二十條ニ云々トアルハ第十九條ノ誤ニ候條此旨相達候事  
十二三條中ノ誤ハ本條ニ於テ既ニ改正ス

(參考) 明治九年六月廿三日  
警視廳第十一號達

違式註違處分手續第二十條以下左ノ通追加候條此旨相達候事

第三十條 第二十七條(川堀下水等へ土芥瓦礫等)ヲ犯ス者戯ニ一二ノ瓦礫ヲ投シ或ハ些少ノ塵芥ヲ棄ツル者等ハ止メ後來ヲ戒メ放免スルヲアルヘ

第二十一條 凡違註罪犯ハ現ニ認知シタル巡查及

違式註違條例

ヒ損害ヲ受ケシ本人ノ申立ニアラサレハ受理ス  
ヘカラス

但第七條(價造ノ知テ食物并腐敗ノ者)第十條(病牛其死  
病死ノ禽獸ヲ知ハ此限ニアラヌ  
リテ販賣スル者)ハ此限ニアラヌ

第三十二條 違註罪ヲ犯シ逃走シ他府縣ニ至ル者  
住所姓名等分明ナルハ該府縣警察係リヘ調書  
ヲ送り處分ヲ依頼スヘシ

第二十三條 該犯無力ノ趣申立ルト雖モ直ニ實斷  
ヲ用ヒス其住所戸長或ハ其親戚ハ其雇主等ニ照  
會シ其實否ヲ密案シ處分スヘシ  
若シ懲役署ヘ送致ノ後親戚朋友及ヒ雇主等ヨリ  
代リテ贖ハソトテ請フハ其役過スル日數ヲ除

去シ餘日ヲ贖ハシメ其旨ヲ懲役署ヘ通牒シ再ヒ  
本人ヲ呼出シ放免スヘシ

第二十四條 人力車等ヲ疾驅シテ行人ヲ觸倒スル  
者ハ第十三條(乘馬シテ疾驅シテ行人ヲ觸倒スル者)ニ照  
準シ斟酌ナク人力車ヲ疾驅シテ行人ヘ迷惑ヲ掛  
シ者ハ第三十二條(斟酌ナク馬車ヲ疾驅シテ行人ヘ迷惑  
ヲ掛シ者)ニ照準シ處分スヘシ

第二十五條 第四十九條(市中往來筋ニ於テ便所ニ  
者)ヲ犯ス者田野及ヒ河中船上ニ於テスル者ハ不  
問ニ付スヘシ

(參考)  
明治九年六月廿七日  
警視廳第十七號達

違式違註條例

違式註違處分手續第廿六條左ノ通追加候條此旨相違候事

第二十六條 違註罪ノ輕減加等スル者ハ左ノ書式ニ照シ申渡シテナスヘシ

○第一 違式罪ヲ輕減シテ註違罪ヲ科スルノ申渡書式

何府縣何大區何小區  
何町何番地  
何、誰

其方儀何所ニ於テ何々ノ所業致ス段違式罪目何條ニヨリ處分スヘキノ處情法ヲ酌量シ贖金何拾何錢申付候事

但何ノ誰ニ對スル損害ノ償金何圓何十錢償却スヘシ  
年月日 警視第何方面何署印

○第二 註違罪ニ加等シテ違式罪ヲ科スルノ申渡書式

(住所姓名認メ方前ニ同シ)

其方儀何所ニ於テ何々ノ所業致ス段註違罪目何條ニヨリ處分スヘキノ處情法ヲ酌量シ贖金何圓何十錢申付候事

但書前ニ同シ  
年月日 (署名認方前ニ同シ)

○第三 無力ノ者實決スルノ申渡書式

違式註違條例

其方儀何所ニ於テ何々ノ所業致ス段違式(註違)罪  
目何條ニ照シ(處分スヘキヲ)贖金何圓何拾錢可申  
付處無力ニシテ贖フ能ハサルニヨリ懲役(拘留)  
何日申付候事

(署名認メ方前ニ同シ)

○第四 呵責ノ申渡書式

(住所姓名認メ方前ニ同シ)

其方儀何處ニ於テ何々ノ所業致ス段違式(註違)罪  
目何條ニヨリ處分スヘキ處情方ヲ酌量シ呵責申  
付候事

但何ノ誰ヘ對スル損害ノ償金何圓何十錢償却

年月日

(署名認メ方前ニ同シ)

(參考) 明治九年七月十一日  
警視廳第三十三號達

違式註違手續書第二條第三條左ノ通改定候條此旨相

達候事

第二條 違式ノ罪ヲ犯シ無力ニシテ贖金ヲ納ムル  
ト能ハサル者ハ日數ニ折算シ士族ハ禁獄平民婦女  
トハ懲役士族ノ婦女ハ鎖錮ニ換ヘ註違ハ總テ拘  
留ニ換フ

第三條 老幼ハ七十年以上八十年以下癡疾及ヒ  
婦女違式註違罪ヲ犯ス時ハ總テ輕減シ其贖金ヲ

追徴スヘシ若シ無力ニシテ贖フコ能ハサル者ハ  
日數ニ折算シ第二條ニ依リ實斷スヘシ

(參考) 明治九年七月十八日  
警視廳第四十一號達

本年六月達第十七號違式註違處分手續第二十六條ノ  
第四阿責申渡書式中(申付候事)ノ四字刪除候條此旨相  
違候事

(參考) 明治九年七月廿五日  
警視廳第四十七號達

違式註違處分手續第七條但書刪除候條此旨相違候事  
(參考) 明治九年八月七日  
警視廳第六十七號達

違式註違處分手續書左ノ通追加候條此旨相違候事

第二十七條 違式罪目第二十二條ヲ犯ス者膝以下  
ヲ露ハスハ不問ニ置キ膝頭以上ヲ露出スルハ本  
條ニヨリ相當ノ罰金ヲ科スヘシ

(參考) 明治九年九月十八日  
警視廳第八十九號達

今般太政官第百十七號布告ニ依リ違式註違處分手續  
第七條別紙ノ通改正候條此旨相違候事  
第七條 違式註違ノ罪ヲ犯ス者ハ左ノ例ニ照シ之  
ヲ處分ス其實斷スル者ハ二日半以上ハ懲役署へ  
送致シ二日以下ハ該署ニ於テ拘留ス可シ

贖金		實斷		贖金		實斷	
一圓五十錢	懲役十五日	七拾錢	懲役七日	壹圓四十錢	同	六日半	同
壹圓三十錢	同	六拾錢	同	壹圓三十錢	同	六日	同
壹圓二十拾錢	同	五十五錢	同	壹圓二十拾錢	同	五日半	同
壹圓拾錢	同	五十錢	同	壹圓拾錢	同	五日	同
壹圓	同	四十五日	同	壹圓	同	四日半	同
九拾錢	同	四拾錢	同	九拾錢	同	四日	同
八拾錢	同	三拾五錢	同	八拾錢	同	三日半	同
七拾五錢	同	三拾錢	同	七拾五錢	同	三日	同

二拾五錢	同	二日半
二拾錢	拘留二日	
拾五錢	同	一日半
拾錢	同	一日
五錢	同	半日

(參考) 明治九年十月七日  
警視廳第四百號達

本年六月達第十七號達式註違處分手續第二拾六條ノ  
第一第二第三書式中(申付候事)ヲ(申付ル)ニ改メ候條此  
旨相達候事

達式註違條例

(參考) 明治十年八月廿九日警視局達

違式註違處分手續第二十八條左ノ通追加候條此旨相違候事

第廿八條 凡違式註違罪犯實決スル者其期限中本人又ハ親戚等ヨリ贖金納付スルキハ左ノ書式ニ倣ヒ該犯へ申渡放還スベシ  
但懲役中ノ者ハ監獄署へ出願セシメ同署ニ於テ放還ノ申渡ヲ爲スヘシ

本貫族籍身分

何ノ誰

年齡

其方儀註違何條ヲ犯シ無力ニヨリ懲役何日申付

置候處本日ヨリ剩ル日數何日間ノ贖金何十錢収納候ニ付放還申付ル

東京警視

監獄署

年月日

又ハ

警視第何方面

第何分署

(參考) 明治十年八月廿六日警視局達

違式註違罪目第二十二條裸體又ハ袒裼シ或ハ股脚ヲ露シ醜體ヲ爲スモノハ夫々相制シ候筈之處近頃ニ至リ稍相弛ニ不體裁ノ者不少候條猶一層注意可致此旨

一七七

違式註違條例



相達候事

但本文制方ノ儀ハ來ル十日ヨリ嚴ニ着手可致尤モ  
區戸長ヨリモ豫メ諭達爲致置候事

(參考)

明治十一年五月十八日警  
視本署ヨリ各分署へ達

明治九年六月達第十七號違式註違處分手續第二十六  
條第二ノ書式中(違式罪)ハ(違式贖金)ト改メ又情法ヲ酌  
量シノ六字ヲ刪除シ「其情狀ノ重ニ依リ」ノ九字ヲ填補  
候條此旨相達候事

(參考)

明治十一年六月十三日警  
視本署ヨリ各分署へ達

違式註違處分手續第二十九條第三十條左ノ通追加候

條此旨相達候事

第二十九條第七十四條ノ設ケハ固ヨリ詩歌謠曲等  
雅俗ニ拘ラス街上ニ高唱スルノ不體裁ナルヲ制ス  
ルニ止ルモノナレハ其太甚シキニ非ルヨリハ大体  
説諭ニ止ムヘシ而シテ田間又ハ水上等街路雜沓ノ地  
ニ非ルモノハ之ヲ制止スルノ限リニアラス  
第三十條第七十五條ハ安眠ヲ妨クルモノヲ制止ス  
ルノ主旨ナレハ其被妨者ヨリ訴告スルニ非レハ之  
ヲ認メテ犯則者トナスヘカラス而シテ被妨者ヨリ  
訴フルヲ待テ之ヲ處分スルハ都テ其家主ニ止マル  
ヘシ然レモ客又ハ其他ニ於テ家主ノ言ヲ用ヒス本  
條違背スルモノハ其主タル犯罪者ノミヲ處分スヘ

違式註違條例

(參考) 明治十一年六月十五日警視本署ヨリ各分署へ達

違式註違處分手續第十八條左ノ通改正候條此旨相達候事

第十八條 勅委任官及華族有位士民等ニ係ル喚出狀ハ左ノ第一例ニ照シ其他ニ在テハ第二例ニ照スヘシ

第一

何大區何小區何町何番地  
何官位又ハ華族  
何 誰

右何月何日何大區何小區何町何村ニ於テ何々ノ廉ニテ

違註罪ニ觸レ候ニ付可及處分候條明(後)何日午(前後)第何時家令家扶執事ノ内贖金何程(償金ヲ要スル時ハ金額凡見積リ記載スヘシ)用意ニテ當分署へ出頭可爲致此旨相達候事

年月日

警視第何方面何分署印

第二

何大區何小區何町何番地  
士族平民  
何官位誰ノ妻子弟  
(父母)(何官省厘)  
何 誰

右何月何日何大區何小區何町何村ニ於テ何々ノ廉ニテ違註罪ニ觸レ候ニ付可及處分候條明(後)何日午(前後)第何時贖金何程(償金ヲ要スル時ハ金額凡見積リ記載

違式註違條例

スヘシ)用意ニテ當分署へ出頭可爲致此旨相達候事

年月日

警視第何方面何分署印

追テ木八事故アラハ代人差出不苦候也

(參考)

明治十一年六月廿二日警視本署ヨリ各分署監獄署へ達

士族違式ノ罪ヲ犯シ無力ニシテ贖金ヲ納ムル能ハサル者自宅禁獄可申渡旨明治九年七月二十二日相達置候處以來右ハ總テ監獄署へ送付可致此旨相達候事但シ其婦女ハ従前ノ通タルヘシ

○月俸規則 本朝民鑑乾ノ卷へ掲シ

(改正) 明治九年七月十日太政官第七十號ヲ以テ院省使廳府縣へ達

明治七年五月第六十一號達月俸規則中左ノ通改正候條

此旨相達候事

月俸規則

第八條

- 一 外國出張ノ者云々
- 但六個月ヲ置キ猶在留スル者留守宅ニ於テ受取ラント欲スル者ハ名代人ヲ定メ發程前其旨申立置シヘシ
- 一 在留中免職ノ者ハ其月十五日前後ノ區分ヲ以テ計算シ過給ノ分ヲ返納セシム第七條モ亦同シ

月俸規則

第九條

一 公使領事書記官書記生等へ轉任スル者ハ月ノ十五日前後ハ拘ハラス任官ノ前日迄月俸日割ヲ以テ前官廳ニ於テ支給スヘシ

但日割ハ其月ノ日數ニ分割スヘシ

一 公使領事書記官書記生等ヲ拜命シ出發前他ノ官吏へ轉任スル者ハ十五日前後ノ區分ヲ以テ更ニ後官相當ノ月俸ヲ後官廳ニ於テ支給スヘシ

一同斷任滿又ハ事故アリテ歸朝ノ者轉任ノ節ハ第四條但書ニ準據スヘシ

(改正)

明治九年四月廿日太政官第三十八號ヲ以院省使廳府縣へ達

明治七年五月第六十一號達月俸規則第二十二條左ノ通り改正候條此旨相達候事

月俸規則

第二十二條

一 免職又ハ奉職中病死ノ者ニハ其節ノ月俸規則ヲ以勤績キ一ノ年ニ定メ拜命以來ノ年數ニ乘シテ之ヲ賜ルヘシ若シ免職ノ時ニ當テ破廉耻及ヒ私罪懲役一年以上ノ罪ヲ犯ス者及ヒ糾問中免職ニ處決ノ上同上ノ罪ニ該ル者ハ此ノ例ニアラス

但書從前ノ通

(追加)

明治九年五月十九日太政官第五十六號ヲ以院省使廳府縣へ達

月俸規則

明治七年五月第六十一號達月俸規則第十八條但書左ノ  
通り追加候條此旨相達候事

- 一 私事訴訟ノ原告人又ハ証人引合人トナリ之カ  
爲メ出勤セサル日數十六日ニ及フ者ハ本條ニ準  
シ減シテ五分ノ一ヲ給スヘシ

(改正)

明治十年一月四日太政官第  
二號ヲ以院省使府縣ニ達

月俸規則中第三條並第二十二條但書第二項左ノ通改  
正候條本年一月ヨリ施行可致此旨相達候事

第三條

- 一 上下半月内ニ免職ノ者再任スレハ都テ轉任ノ例  
ニ依ヒ第四條ニ準シ其俸ヲ給スヘシ

第二十二條但書第二項

- 一 滿年賜金ハ免職ノモノヘ賜ハルヘシト雖モ若シ  
被免ノ日ヨリ三十日内ニ再任スレハ勤續キノモノ  
ト同シク他日免職ノ節前後ヲ通算ノ之ヲ給スヘシ

(改正)

明治十一年三月四日太政官第  
七號ヲ以院省使府縣ニ達

月俸規則中第九條左ノ通り改正候條此旨相達

第九條

公使領事書記官書記生等轉任及ヒ同官ヨリ他ニ轉  
任スル時ハ其月十五日前後ニ拘ラス月俸ハ其月ノ  
日數ニ分割シ轉任前日迄前官應轉任當日ヨリ後官  
應ニ於テ支給スヘシ尤公使領事書記官書記生等ヲ

月俸規則

拜命ノ出發前他ニ轉任スル者ハ十五日前後ノ區分  
ヲ以テ後官相當ノ月俸ヲ後官廳ニ於テ支給スヘシ

○飛信遞送規則 本朝民鑑乾  
卷ノ掲ク

(參考) 明治十年六月廿八日內務省  
乙第五十九號ヲ以府縣ニ達

明治七年九月御發行飛信遞送規則第九項ニ途中脚夫  
足痛等ノ事ニ付テハ豫テ沿途ノ町村戸長ニ郵便取扱  
役ヨリ及協議候次第モ可有之等然ルニ同規則ノ儀ハ  
一般ニ公布相成候儀ニ無之故ニ町村戸長等ニ於テモ  
一般熟知不致ヨリ自然郵便取扱役ノ協議ニ疑惑ヲ生  
シ時機ニ際シ差支候條能戸長等ヲシテ同規則第六項

及九項ノ旨趣ヲ熟セシメ不都合無之様可取計爲念此  
旨相達候事

(參考) 明治十年九月十日內務省乙第八十  
一號ヲ以テ東京府ヲ除府縣ニ達

今般第五十九號ヲ以テ飛信遞送賃錢仕拂方ノ儀公達  
ノ趣モ有之候ニ付テハ以來各所ヨリ其廳ニ飛信到着  
候節ハ其飛信繼送帳ノ義ハ當省驛遞局於テ脚夫賃錢  
取調ノ都合モ有之候條無稅郵便ヲ以テ必ス同局ニ可  
差出此旨相達候事  
但即今其廳ニ留置候繼送帳有之候ハ、本文ノ通驛  
遞局ニ可差出事

飛信遞送規則

○造幣規則 本朝民鑑乾

(參考) 明治十一年六月 大藏省號外布達

客歲六月三十日前一週年間大坂造幣局ニ於テ鑄造スル所ノ貨幣ヲ取テ例年試驗ニ供シ又殘片各種ヲシテ之ヲ米國ニ送致セシメ同國造幣寮ノ試驗ヲ要シタリ而シテ今同國造幣寮試驗役ウヰリヤム、コポアト、氏ノ報告ニ就テ在米國公使館ニ於テ調製シタル彼我對照ノ品位表ヲ併セテ左ニ公示ス

番號	五圓
三	九〇〇、五

四	五圓	九〇〇、五
一	五圓	九〇〇、二
	十圓	九〇〇、二
	二十圓	九〇〇、一
二	五圓	九〇〇、二
	五圓(金棒ノ 截片)	九〇〇、一

番號	銀	
一	貿易銀	九〇一、
二	貿易銀	九〇〇、〇
二	貿易銀	九〇〇、〇

造幣規則

造幣規則

補助銀

貿易銀	貿易銀	貿易銀	貿易銀	五圓	五圓	五圓	五圓	五圓
ノ 截片	チ ツ ブ ロ リ	三番	二番	一 番	金 棒 ノ 截 片	四番	三番	二番
九〇〇、二	九〇〇、七	八九九、六	九〇〇、六	九〇〇、一	九〇〇、四	九〇〇、二	九〇〇、一	九〇〇、〇
貿易銀	貿易銀	貿易銀	貿易銀	五圓	五圓	五圓	五圓	五圓
	三番	二番	一 番	金 棒 ノ 截 片	四番	三番	二番	一 番
九〇〇、	九〇〇、五	九〇〇、	九〇一、	九〇〇、一	九〇〇、五	九〇〇、五	九〇〇、二	九〇〇、二

十圓	二十圓
九〇〇、〇	九〇〇、一
十圓	二十圓
九〇〇、二	九〇〇、一

大坂造幣局試験表 費府造幣寮試験表

試験役

ウヰリヤムシボアー手記

一千八百七十七年十月十一日

三	貿易銀	九〇〇、五
二	五錢塊	八〇〇、五
二	十錢同	八〇〇、
二	二十錢塊	八〇二、



二十錢	ギツア リノ 截片	七九九七	二十錢	ギツア	八〇二
十錢	同上	七九九七	十錢	同上	八〇〇
五錢	同上	七九九六	五錢	同上	八〇〇・五

此表ハ在米公使館ニ於テ彼我ノ報告ニ據リ作ルモ  
ノナリ

(參考)

明治十一年七月廿七日大  
藏省甲第二十四號布達

造幣不適當ノ金銀并金銀混合ノ地金精製分拆ノ儀造  
幣規則第七條ニ掲載有之候處實際ノ手續了知不致向  
モ有之哉ニ相聞候ニ付今般更ニ別紙ノ通精製分拆規  
則相定候條此旨布達候事

精製分拆所規則

第一條

一造幣局ナル精製分拆所ニ於テ内外人民ノ請求ニ任  
セ精製分拆スル不純粹ノ金銀地金造幣不適當及ヒ  
金銀混合地金ハ其價二百圓以上ニシテ雜物ハ百分  
中二百五十分以下ノモノタルベシ  
但雜物トハ地金中金銀ヲ除ノ外諸鑛物ヲ指シテ  
云フモノナリ以下之ニ同シ尤此鑛物ハ都テ返却  
セサルヘシ

第二條

一精製分拆ノダメ不純粹ノ金銀地金及ヒ金銀混合ヲ  
輸入スル時ハ試驗鑄解ノ上試驗分拆ヲナシ金銀品

造幣規則

位ヲ輸入人ニ示シ承諾ヲ得ルノ日ヨリ左ノ日限  
ヲ以テ之ヲ精製分拆スヘシ

但試験分拆料及ヒ精製分拆料ハ第六條ノ通りタ  
ルヘシ

金銀ノ價 二百圓以上五百圓 休日ヲ除キ  
三日間

同 五百圓以上千圓 同上 五日間

同 千圓以上五千圓 同上 七日間

同 五千圓以上一萬圓 同上 十日間

同 一萬圓以上 其時々工業ノ  
都合ニ寄リ日限ヲ定ムヘシ

但精製分拆ノ金銀地金品位試験分拆ノ日限ハ

此外ナルヘシ

第三條

一 試験分拆ノ上精製分拆ニ不適當ナルカ或ハ望ミニ  
依リ其儘地金ヲ輸入人ニ返却スルトキハ第六條ノ  
通り試験鑄解料及ヒ試験分拆料ヲ納メシムヘシ

第四條

一 精製分拆ノ上貨幣鑄造ヲ願ハスシテ精製塊ニテ引  
渡シヲ請求スルトキハ其塊數ニ應シ更ニ第六條中  
精製地金ノ試験分拆料ヲ納メシムヘシ尤貨幣鑄造  
ヲ願フトキハ納ムルニ及ハス

第五條

一 精製分拆シタル金銀地金造幣規則第四條但書ノ高

ニ滿タサルトキハ精製濟ノ日ヨリ十五日目ニ至  
 金ハ本位ノ金貨銀ハ貿易銀貨ヲ以テ拂ヒ渡スヘシ  
 但鑄造ノ手数料ハ造幣規則第十條第十一條ノ割  
 合ヲ以テ引去ルヘシ

第六條

一精製分拆料試驗分拆料及ヒ試驗鑄解料ハ左ノ通り  
 タルヘシ

精製分拆料

不純粹金地金ハ

純金十オンスニ付

金一圓卅七錢五厘

不純粹銀地金ハ

純銀十オンスニ付

金二十一錢三厘

金銀混合 百分中金地金ハ

所含ノ純金十オンスニ付

金三圓二十三錢

同純銀十オンスニ付

金二十一錢三厘

金銀混合 百分中金地金ハ

所含ノ純金十オンスニ付

金一圓九十錢四厘

同純銀十オンスニ付

金十二錢八厘

金銀混合 百分中金地金ハ

所含ノ純金十オンスニ付

金一圓卅七錢五厘

同純銀十オンスニ付

金八錢五厘

但右ハ都テ百分中雜物百分未滿ノモノニシ  
 若シ雜物百分以上ヲ含有スル地金ハ右費額  
 ノ外雜物百分毎ニ割合ヲ以テ增手数料ヲ受

造幣規則

取ルベシ  
 其地金純金十オンスニ付 金三十四錢九厘  
 所含ノ純銀十オンスニ付 金二錢二厘

試験分析料

不純粹金地金 一塊ニ付 金三圓

金銀混合金地金 同 金二圓

不純粹銀金地金 同 金一圓

精製金地金 同 金二圓

同 銀金地金 同 金一圓

試驗溶解料 溶解料ハ第三條精製ニ不適當ナルカ或ハ望ニ依リ其儘金地金返却スルキニ限リ納メシムヘシ

不純粹金地金 五百オンス未滿 金一圓

同 千オンス未滿 金二圓

但千オンス以上五百オンス毎ニ金一圓ヲ増ス

不純粹銀金地金 千オンス未滿 金一圓

同 千オンス以上二千オンス未滿 金二圓

但二千オンス以上千オンス毎ニ金一圓ヲ増ス

第七條

一 貨幣鑄造ノ爲メ輸入スル金銀地金若シ造幣不適當

ニシテ精製分拆ヲ請求スルトキハ單ニ左ノ費額ヲ

以テ精製分拆スヘシ其日限ハ第二條ニ同シ

不適當金地金

純金十オンスニ付 金一圓廿八錢四厘

不適當銀金地金 有中些少ノ金ヲ含

純銀十オンスニ付 金二十錢八厘

純金十オノスニ付 金三圓十四錢五厘  
但雜物百分以上ノ地金ナレハ第六條精製分拆料  
ノ割合ヲルヘシ  
右ノ通相定候事

○公用土地買上規則 本朝民鑑乾

(參考) 明治十年十二月二十日內務省  
乙第百十三號ヲ以テ府縣へ達

院省使ニテ官用ノ爲メ土地ヲ要スルキハ八年太政官  
第百三十二號達公用土地買上規則第三則ニ據リ所用  
應ヨリ當省へ照會相成候得ハ當省ニ於テ實地差支有  
無等諮詢致來候處自今便宜ノ爲メ所用廳ヨリ直ニ地

方官ニ協議シ實地差支等無之上當省ニ照會相成候得  
ハ當省ニ於テハ地方官ヨリ所用廳へノ回答書ニ據リ  
別ニ諮詢不致候條所用廳ヨリ協議相成候節ハ右規則  
ニ據リ無遺漏取調民有地ノ分ハ差支有無相答可申尤  
官有地ニ係ル分ハ實地差支有無取調ノ上當省へ協議  
可相成旨相答置同時當省へ可申出此旨相達候事  
但官有ノ建物立木有之節ハ相當代價本文同様取調  
候儀ト可相心得事

○戶籍 本朝民鑑坤

(參考) 明治四年五月廿五日  
太政官ヨリ官省へ達

公用土地買上規則

先般戶籍法御布告相成候ニ付テハ東京へ全戶移住ノ  
官員ハ別紙雛形ノ通り寄留ノ官員ハ戶籍法第三號書  
式ノ通相認メ來ル晦日迄ニ其官省へ爲差出東京府へ  
相廻可申事

但移住ノ分ハ同府へ相違候段本貫管轄廳へモ可相  
達事

別紙 全戶移住届書式

某藩族屬

何ノ誰  
父  
母

妻  
幾男幾女誰

右何年何月日移住仕候

某住所

何ノ誰印

年號干支月日

但家令以下從者婢僕他ノ管轄ヨリ召抱候分ハ第三  
號戶籍法寄留人書式ニ准シ別紙ニ認メ可届出事

(參考) 明治四年六月十七日太政官達

今般寄留人取調ニ付別紙ノ通自東京府申出候條爲必  
得相違候也

別紙

今般府下寄留人へ鑑札相渡候儀ニ付府下朱引ノ内  
 派々區畫ヲ定メ士族ヲ撰假區長トナシ取調方爲致  
 候ニ付自今戸籍人別ノ儀ニ付テハ其戸長ヨリ達ノ  
 趣違背致間敷尤モ時宜ニ依リ其區中添年寄ヲ以假  
 區長トモ合併爲取扱候儀モ可有之間其旨心得居可  
 中事

但向後他管内ノ者雇入候カ又ハ尋來候ハ、其段  
 早速假區長ニ當分其區可相届候  
 一區畫ノ儀ハ追々其區長ヨリ達可致候共御郭内ハ  
 當分戸籍調所幸橋御門内其他ハ近傍町取扱所へ  
 聞合候様可致事

一諸官省並ニ府藩縣ヨリ今般取調差出候寄留人名

帳其區々へ下ケ渡尙一月毎ニ檢査爲致候事

一寄留鑑札ノ儀ハ一體其者本貫屬管轄廳ノ鑑札ト  
 引替可相渡御規則ニ有之候へトモ右被仰出候  
 日合モ無之即今士民トモ本貫管轄廳ノ鑑札所持  
 不致候付今般ノ儀ハ諸官員并ニ右從者ハ其官省  
 府藩縣士族并ニ右從者ハ其藩縣出所ヨリ前番ノ  
 通差出候人名帳ヲ証トシ寄留鑑札相渡方取計其  
 他當府貫屬士族社寺從者并平民召連等ノ儀ハ其  
 雇主又受人ノ証書ヲ執リ鑑札渡方致候事  
 但本貫管轄廳ヨリ鑑札受取候ハ、早速可差出  
 候

一乘、十五日ヨリ二十五日限リ府下全區寄留人員

取調致度候ニ付右日限中但日限ニテモ寄留移轉  
 致シ度者ハ其段區長町用扱所區申出可受差圖候事  
 一右寄留鑑札相渡候節其區長中廣大ノ場所見立役  
 々出張登人別ニ引合鑑札可相渡尤モ諸官員并右  
 從者ノ分主人又ハ家令執事ノ内呼出一纏ニ相渡  
 受取書面執置候事

(參考) 明治九年六月五日太政官第  
 五十八號ヲ以テ使府縣ニ達

實子アル者養子ヲ以相續人トシ子女アルノ寡婦夫ヲ  
 迎へ前夫婦相續人ト定ムル等ハ一般難差許定規ニ候  
 得共華士族ヲ除クノ外現實極貧或ハ老病等ニテ實子  
 孫アリト雖トモ幼少ナルカ又ハ有子ノ寡婦アリトモ

極貧或ハ其子女幼少且後見スヘキモノモ無之歟ノ場  
 合ニテ親族協議ヲ以テ願出候節不得止事情ニ係ル者  
 ハ地方官限リ聽届不苦此旨相達候事

(參考) 明治十年十一月十日東京府  
 甲第九十四號ヲ以テ布達

從前願届等總テ書面差出來候所當十一月十五日ヨリ  
 別紙ニ記載スル事項ニ限リ廳中豫テ簿冊ヲ設ケ置キ  
 本人ヨリ申請スル趣旨ヲ主務ノ吏員於テ登錄シ之レ  
 ニ調印セシメ書面ニ代用スルヲ得シメ候條條此旨  
 布達候事

但從前ノ通書面差出方ヲ便利ト相心得候者ハ勝手  
 ニ任セ候且ツ戶籍ニ係ル諸届其他區務所ニテ取扱



候事項ノ手續ハ追テ區戶長ニ可相達候事

上申簿ニ登錄シ書面ニ代用スルヲ得ル事項左ノ

如シ

- 一 願何屆等ノ書面引下シ並ニ引換願
- 一 工作場移轉開閉休業屆
- 一 物品製造發賣願及ヒ屆
- 一 他管廳ニ添書願
- 一 公私學校開業日限屆
- 一 私學廢校屆
- 一 私學轉校屆
- 一 公立學校教員試驗願
- 一 諸印紙拂下願

- 一 渡船田船免稅願
- 一 新古金銀交換願
- 一 價紙幣裁斷ニ付始末屆
- 一 私僑外國人居留地外住居立拂ノ節僑寓免狀返納屆
- 一 上水井新設廢毀願并着手落成屆
- 一 上水井掘修繕願并着手落成屆
- 一 自費寬修繕願并着手落成屆
- 一 家前地先道路修繕願并着手落成屆
- 一 自費橋梁修繕願并着手落成屆
- 一 下水設修繕願并着手落成屆
- 一 邸内路次新設修繕之節著手落成屆
- 一 自費堤防石垣垣掘新設修繕並川浚等ノ節著手落成

- 一 官地内堀井新設廢毀修繕并著手落成届
- 一 第一大區八九小區煉化屋塗家新築摸樣替并著手落成届
- 一 公債証書所持主轉届
- 一 公債証書所持改姓名改印届
- 一 公債証書利賦金領收証書
- 一 公債証書所轉換印摺豫願

(參考)

明治十年十二月廿七日東京府乙第百號ヲ以テ區戶長ニ達

凡民備入ノ外國人明許ヲ得テ居留地外ニ住居爲致候者左記書式ヲ通其家屋ニ標札掲候様備主ニ無遺漏

阿及告示此旨相達候事

何某備  
何國人  
朱書  
姓名  
朱書  
縱五寸  
橫二寸  
片假名

(參考)

明治十年十二月廿七日東京府甲第百七號布達

士族ノ輩他管ニ寄留或ハ旅行等ニ儀當廳ニ願出來候處自今不及出願候條其時々該區務所ニ可届出此旨布達候事

(參考)

明治十年十二月廿八日東京府

乙第百一號ヲ以テ區戶長へ達  
從前行旅人病痾或ハ旅費空乏等ニテ本籍へ遞送ノ者  
モ沿道宿驛ニ於テ附添人差出候處自今縱放シ難キ事  
故アル者ヲ除クノ外其儀ニ及ハス尤獨歩相成難キ者  
へ車駕等ノ入夫差出スハ別段ノ儀ニ付都テ官廳ノ添  
翰ヲ証トシ休泊成規ノ通可取計此旨相達候事

(參考)

明治十一年三月八日東京府號外  
ヲ以伊豆七島ヲ除ク區戶長へ達

戶籍法不了解ノ者嘗テ届出方疎漏ヨリ籍面誤脱等有  
之分改正方明治九年十月乙第六十一號ヲ以相達爾來追  
々及改正候得共多人數之儀其内無餘儀事情ヨリ尙其  
期ヲ失シ候尙有之哉モ難計ニ付更ニ本年十二月三十

一日迄延期最前同様府廳限リ改正方可取扱候條區内  
無洩及示諭右等ノ向ハ至急府廳戶籍掛へ申出候様可  
取計此旨相達候事

(參考)

明治十一年七月五日警視  
本署ヨリ各課各分署へ達

乞食體ノ者及ヒ無籍者送付方ノ儀ニ付本年第二十七  
號第五十一號ヲ以テ相達置候處今般右送致書式左ノ  
通相定候條此旨相達候事  
乞食體ノ者及無籍者送致書式

何管下何大區何小區何町何番地

士族平民誰子弟父兄

或ハ原籍不分明

何ノ誰

年齡

右ノ者何月何日午後第何時何大區何小區何村町ニ於テ  
何々ノ廉有之拘引ノ上一應取調候處別段犯罪ノ廉モ  
無之然ルニ其族籍他管ニ係リ(若シハ原籍不分明ニテ)  
他ニ可引取親族故舊ニ無之者ニ付所持品和添本人及  
御引渡候也

第何方面第何分署長

官姓名印

年月日

監獄第二支署

御中

所持品目錄

一、何個

一、何個

一、何個

右ノ通候也

本人姓名印

年月日

主任官吏姓名宛

(參考)

明治三十一年四月一日内務省  
乙第三十二號ヲ以府縣ニ達

明治五年二月大藏省第十一號布達宿村繼ノ儀必ク宿

村毎ニ繼立候テハ徒ラニ時間ヲ費シ從テ入費モ相嵩

ニ候ニ付自今可成丈宿驛繼ニ取計ヒ元費省減相成候

様可致此旨相達候事

○皇族華族取扱規則

(參考) 明治九年五月八日太政官第四十八號ヲ以華族有之府縣へ達

華族ノ輩願伺届等ノ儀ニ付本年三月二十六號ヲ以相達置候趣ニ有之候處自今伺届共何件ニ不限直ニ宮内省へ可差出此旨華族へ可相達候事

但願伺書ハ宮内省ニテ許可ノ上其管轄應へ可届出其餘ハ第廿六號達但書ノ通可相心得事

(參考) 明治九年九月七日太政官第八十六號ヲ以華族有之府縣へ達

華族ノ輩願伺届等ノ儀ニ付本年五月第四十八號ヲ以相達置候趣ニ有之候處自今家名又ハ身上ニ係ル願伺届

(例) ハ隱居家督元服生死及給祿等ノ類ハ宮内省へ可差出其他地方ニ係ル分ハ(例)ハ土地賣買地券書替諸車檢印等ノ類管轄應へ可差出此旨華族へ可相達候事

(參考) 明治九年九月十一日太政官第八十七號ヲ以使府縣へ達

宮華族ノ輩令扶雇人ノ儀ニ付テハ明治四年二月相達候趣ニ有之候處右ハ廢止候條自今華族輩家令扶雇入并ニ雇免ノ節ハ雇主并ニ雇人共各其本管應へ届出候様可致此旨相達候事

皇族華族取扱規則

○華士族平民養子婚姻離婚手續 本朝民鑑坤

(參考) 明治九年六月五日太政官第  
五十八號ヲ以て使府縣へ達

實子アル者養子ヲ以テ相續人トシ子女アルノ寡婦夫ヲ迎  
へ前夫跡相續人ト定ムル等ハ一般難差許定規ニ候へ共華士  
族ヲ除クノ外現實極貧或ハ老病等ニテ實子孫アリト雖モ  
幼少ナルカ又ハ有子ノ寡婦タリモ極貧或ハ其子女幼少且後  
見スヘキ者モ無之歟ノ場合ニテ親族協議ヲ以テ願出候節  
不得止事情ニ係ル者ハ地方官限リ聽許不苦此旨相達候事

(參考) 明治十一年六月五日  
東京鎮臺へ達

是迄婚姻ノ儀届出候節結婚ノ月日ノ届出候向モ有  
之右ハ本省ハ届方ニ差支ヘ加之名簿記載上不都合甚

カラハ候條自今別紙離形ノ通リ相認メ本人ヨリ正副  
二葉宛差出申セ其旨日報ヲ以テ可届出此旨相達候事  
追テ婚姻ノ儀願出候節モ本文同様明瞭ニ記載可爲  
致候事

離形

何縣何族何國何郡何大區  
何小區何町何某何女  
某

何年何月何日生

右何月何日縁組仕度趣伺出候處御許容相成候ニ付  
何月何日婚姻相整候間此段御届申上候也

華士族平民養子婚姻離婚手續

所管隊號

某姓名印

年月日

司令長官宛

○恤救規則 本朝民鑑坤

(參考) 明治十年五月十四日內務省  
乙第五十二號ヲ以府縣へ達

棄兒養育致候寄留人へ養育米渡方ノ儀自今寄留中ハ  
其寄留地ノ管轄廳ヨリ可下渡此旨相達候事

(參考) 明治十年五月廿五日東京府乙  
第五十一號ヲ以テ區戶長へ達

棄兒養育者ヲ引受ノ區内預ケノ或ハ養子女ニ致居候寄  
留人別紙書式ニ照シ詳悉取調來ル六月五日限リ正副

二通差出且ツ將來出入ノ都度右ニ準シ可届出此旨相

達候事

棄兒養育ノ寄留人調書

第何大區何小區某村

何番地第何寄留

某縣管下

某國某郡某村町

何番地士族村

何某養育或ハ

棄兒氏名

年齡

一何年何月何日某縣府願濟養育

恤救規則

一養育米何年何月分迄受取濟  
一何年何月何日ヨリ當地寄留  
右之通相違無之候候也

第何大區何小區戶長

年月日

氏名印

東京府知事某殿

(參考) 明治十年七月九日內務省乙  
第六十四號ヲ以府縣へ達

棄兒養育ノ者賞與ノ儀ニ付本年乙第四十三號ヲ以相  
違候處明治四辛未年六月以前願出現今自費養育ノ者  
至同月以後十三年ニ至リシトキハ賞與取計候儀ト可  
相心得此旨相違候事

○負債者失踪後處分規則 本朝民鑑坤  
ノ卷へ掲ッ

(參考) 明治十一年一月十七日東京府  
戸籍掛ヨリ各區々戶長へ達

借宅ノ者全戶失踪ノ後家主ニ於テ其家屋ヲ引揚更ニ  
他人へ貸付候旨届出候節ハ失踪人住所書ノ内何番地  
借宅ノ文字ヲ消シ住所ノ上ニ其由ヲ登記シ該籍ハ其  
町村戸籍ノ末ニ編綴スヘシ尤モ居住或ヒハ借地ノ者  
ハ前文同様取扱フヘキ筈ニ候條此旨通達ニ及候也

(參考) 明治十一年一月廿六日東京府  
戸籍掛ヨリ各區々戶長へ達

失踪人復歸ノ節是迄府縣へ歸住願書差出候向モ有之  
負債者失踪後處分規則 二二五



候得共右ハ出願ニ及ハス候間届出候ハ其時々本籍  
ニ歸ル候様取計ハルヘシ此段心得ノ爲メ通達及ヒ置  
候也

○貸借及諸品賣買心得 本朝民鑑坤ノ

(參考) 明治十年五月一日大藏省  
乙第十八號ヲ以府縣ニ達

舊藩々貸下金ノ内明治六年第八十一號公布第十九條  
ニ據リ年賦返納スヘキモノ一時返納願出候節壹割利  
引ノ算則同七年第三十號ヲ以テ相違候處今後一時返  
納願出候モノハ七月前後ノ區別ヲ以別紙利引算則ノ  
通返納可取計候此旨相違候事

一割利引千圓率	全ハ七月後上納ノ分其年ノ利足半年分引也
壹年 全九十七圓九錢九厘	半八十七圓九錢九厘
二年 全百三十二圓二錢九厘	半九十二圓二錢九厘
三年 全百七十壹圓四錢九厘	半六十七圓四錢九厘
四年 全二百六十七圓七錢四厘	半一百一十七圓七錢四厘
五年 全二百五十四圓八錢三厘	半一百零四圓八錢三厘
六年 全二百三十九圓五錢三厘	半八十九圓五錢三厘
七年 全二百四十五圓二錢三厘	半九十五圓二錢三厘
八年 全三百三十三圓七錢四厘	半二百三十三圓七錢四厘

貸借及諸品賣買心得

九年 全三百六十九圓六錢八厘  
 十年 全三百八十五圓二錢四分三厘  
 但十年半賦ノモノ假令ハ三年納濟七個年殘リ  
 ノ分ハ殘金ハ七年率七月前上納ナレハ半年率ヲ  
 乘シ四拾五入ニシテ厘位ニ止メ即チ利引高ヲ得  
 ル右差引殘高ヲ以テ上納金ト定ム又八個年賦ノ  
 モノ二個年上納濟ノ分ハ殘金ハ六年率ノ區別前後  
 シノ如ク乘シ利引高及ヒ上納高ヲ得ル事前ニ同シ

(參考)

明治十年五月十八日太  
 政官第四十四號布告

明治四年六月十二日商人賣販品代金滯云々ノ布告并  
 同六年七月第二十三十九號布告自今相應候條此旨布

告候事

(參考)

明治十年五月廿八日大藏省  
 乙第廿號ヲ以テ府縣ニ達

九年當省乙第五十六號ヲ以相違置候貸下金出納順序  
 第一條末文ニ本年六月以前ニ屬スル分ニ相當貸下金  
 ナキ七月以後ニ受取同六月以前返納スルヲ云フ從前ノ通リ有之  
 并同年乙第九十六號ヲ以相違候趣モ有之候處右ハ國  
 債局ニテ悉皆負擔爲致候ニ付テハ十年七月一日現ニ  
 越未納領收証無之分ハ未納ト見做スヘシ高ヲ以九  
 十九號達勘定組末條ノ手續キニ倣國債局ニ退引續  
 計算ニ可取計且九年七月一日以前ニ屬スル貸下金受  
 取後ノ分假令請求方申立置候ヲ以テ發遣候分除ノ外  
 貸借及諸品賣買心得

未受ト見同局ヨリ可相渡候ニ付爾後渾テ納受証書類  
ハ國債局長宛ニ相認可差出就テハ五十六號達ノ内第  
二三四條但書及七九十六號但書トニ削除候條其他從  
前ノ通り可相心得此旨相達候事

(參考) 明治十年九月一日大藏省乙  
第二十九號ヲ以府縣ニ達

諸拜借金証文差出方ノ儀ハ明治八年當省乙第六十一  
號ヲ以相達置候處自今東京府ヲ除外驛遞局假証書  
ヲ以可相渡候條該金郵送其廳ニ到達ノ上定規ノ証文  
國債局長宛ニ相認メ驛遞局ニ迅速可差出此旨更ニ相  
達候事

但本文乙第六十一號達ニ照シ既ニ証文差出置候分

ハ從前ノ手續キヲ以金額可相渡候事

(參考) 明治十一年五月二十七日大藏  
省乙第二十三號ヲ以府縣ニ達

明治十年八月三十日乙第二十八號ヲ以相達候石高割  
并宮方舊藩々貸下金受拂勘定帳離形ノ内別紙ノ个條  
增加候條負債主所轉替ノ廉ハ通常貸下金勘定帳ノ儀  
モ同様可相心得候

一 貸下金ノ内負債主他管下ニ轉籍又ハ寄留中該縣廳  
ニ返納ノ儀申立候者有之節向後本人證書甲府縣廳  
リ乙府縣廳ニ直接ニ引繼候儀ト相心得尤甲乙ノ間互  
ニ承認濟ノ上双方ヨリ届出候様可致候通常貸下金  
ノ廉ハ乙廳ニ於テ引受高證書相添可届出候

貸借及諸品賣買心得

右ノ通可相心得此旨相違候事  
年號干支何年七月ヨリ

全 何年六月マテ

石高割并宮方舊藩々共貸下金受拂勘定帳離形ノ  
内受拂總括差引未納ノ部

(朱)

第四枚目身代限處分ノ者未納金差引除高ノ次へ

一金何程

元入改正ニ付減高

(朱)

此部ハ初發處分ノ後舊藩中元入或ハ皆濟ノ  
内 確證發顯處分改正又ハ取消等ニテ減額ヲ揭

載タルモノトス

金何程

石高割貸下金

内

金何程

元金

金何程

元金外上納分

金何程

規則外貸下年賦金

金何程

全利子金

金何程

宮方并舊藩々貸下金

金何程

舊藩々外國債追徴貸下金

金何程

所轉替ニ付他府縣へ引繼高

内

金何程

石高割貸下金

内

金何程

元金

貸借及諸品賣買心得

金何程 元高外上納分  
 金何程 規則外貸下年賦金  
 金何程 全利子金  
 金何程 官方并舊藩々貸下金  
 金何程 舊藩々外國債追徵貸下金

内譯差引未納之部

(朱)

第十五枚目身代限處分ノ者未納高引除高ノ部中舊  
 藩々外國債追徵貸下金ノ次

一金何程 同差引未納高ノ内元入改正ニ付減高ノ部  
 石高割貸下ノ分

金内

金何程 元高  
 金何程 元金外上納  
 金何程 規則外貸下年賦金  
 金何程 利子金  
 此譯

甲何番ノ分  
 年號何年何月何日同濟盛  
 藩中或ハ何年中元入減高  
 甲何番ノ分  
 全斷ニ付元金外上納ノ分  
 同斷  
 甲何番ノ分  
 年號何年何月何日云々  
 前ニ准メ  
 全番ノ内

貸借及諸品賣買心得

金何程

全斷 = 利子金全斷

(朱) 以下何口ニテモ右ニ准ス

一金何程

宮方并舊藩々貸下金ノ分

内

金何程

乙何番ノ分或ハ何番ノ内  
年號何年何月何日伺濟  
舊藩中或ハ何年中元入  
有之減高

(朱)

以下何口ニテモ右ニ准ス

一金何程

舊藩々外國債追徴貸下分

内

金何程

丙何番ノ分或ハ何番ノ分  
年號何年何月何日伺濟  
舊藩中或ハ何年中元入  
有之減高

(朱)

以下何口ニテモ右ニ准ス

同差引未納高ノ内所轄替ニテ未納高ノ内他府縣  
へ引繼高ノ部

一金何程

石高割貸下之部

内

金何程

元高

貸借及諸品賣買心得

金何程

元外上納

金何程

規則外貸下年賦金

金何程

利子金

此譯

金何程

甲何番ノ内

年號何年何月何日御所

轉替ニ付何府縣ニ引繼高

甲何番ノ内

全斷ニ付元金外上納ノ分

全斷

甲何番

年號何年何月何日云々

ニ付前ニ准ス

甲何番

全斷ニ付利子金全斷

金何程

金何程

(朱)

以下何口ニテモ右ニ准ス

一金何程

官方并舊藩々貸下分

内

乙何番

年號何年何月何日御所

所轉替ニ付何府縣ニ引

繼高

金何程

(朱)

以下何口ニテモ右ニ准ス

一金何程

舊藩々外國債追徴貸下分

内

貸借及諸品賣買心得

丙何番  
年號何年何月何日  
御同濟  
所轄替 = 付何府縣  
引

金何程

繼高

(朱) 以下何口ニテモ右ニ准ス

(參考) 明治九年五月十一日司法省第五十一號ヲ  
以大審院裁判所ヲ置サル縣各裁判所ニ達

宮方貸下金ノ内大藏省處分ノ檢印有之分ハ目今舊藩  
々貸下金同様可及裁判旨今般御達有之候條此旨相達  
候事

○建物書入質及賣買讓渡規則 本朝民鑑坤  
ノ卷ニ掲ク

(改正) 明治十年八月廿九日  
太政官第六十號布告

明治八年九月第百四十八號布告建物賣買讓渡規則第二  
條中(若シ此手續ヲナサル時ハ建物讓受ノ効ナキニ  
付建物ノ代價ヲ受取リタル旨ヲ記シタル建物賣渡証  
文ハ金銀借用証文ト看做スヘシ)六十字刪除候條此旨  
布告候事

(參考) 明治十年十二月十五日  
東京府甲第百號布達

岐阜縣第一大區十三小區美濃國厚見郡領下村戸長役  
場地所建物質入書入與書割印締紛失ニ付若該村戸長

建物書入質及賣買讓渡規則



役場ノ公証ヲ受タル証書所持候者有之候ハ、本証書  
ニ寫一通美料紙紙相添來明治十一年一月三十日迄ニ該  
村事務取扱同郡細畑村柳原五平方ハ差出再公証ヲ要  
スヘキ旨同縣ヨリ通知有之候條此旨布達候事

○身代限規則 本朝民鑑坤  
ノ卷ニ掲ク

(參考) 明治十年九月二十二日內務省  
乙第八十六號ヲ以テ府縣ニ達

人民身代限ノ節區入費ノ儀ハ國稅縣稅ニ亞キ先取ノ  
權有之候ヘ共自然身代限リノ上尙區入費ノ不足有之  
候共身代持直次第償却致サセ候ニ不及ソノ區ノ損失  
ニ可相立此旨相達候事

(參考) 明治十一年四月十三日東京  
府乙第十號ヲ以區戶長ニ達

此迄刑事審問中或ハ民事身代限處分ニ付財產取調中  
關係人ノ財產該區々務所ニ保管其費用ハ區費ニ相立  
來候處自今刑事ニ係ルハ區務所ノ保管ヲ要セテ直ニ  
關係人ノ親戚或ハ隣佑等ニ保管民事ニ係ルハ從前ノ  
通區務所ニ保管其費用ハ明治九年司法省布達訴訟入  
費償却規則第十三條ニ據リ身代限財產難賣金ヨリ可  
致償却儀ト可相心得此旨相達候事

○地券渡方規則 本朝民鑑坤  
ノ卷ニ掲ク

(參考) 明治十年十一月九日地租改正事  
務局乙第十六號ヲ以府縣ニ達

身代限規則  
地券渡方規則

本年當局乙第一號ヲ以テ相達候地券離形ノ儀ハ明治九年度以前ニ係ル地租改正及ヒ官地拂下或ハ荒地起返リ開墾地畝下年期明等ニテ明治十年以後ニ相渡候地券記載方ト可相心得明治十年度以降ニ係ル書換券面地租ノ廉ハ本年當局乙第三號達地券離形同様百分ノ二個半ノニ記載可致此旨更ニ相達候事

(參考)

明治十一年七月八日東京府乙第廿一號ヲ以テ伊豆國七島ヲ除ク區務所へ達

改正地券授與ノ後地所賣買讓渡等ニテ書換願出候節ハ去八年地租改正局甲第一號布達ノ通り別紙ヲ以テ可願出答ニ付左ノ書式ニ照準候様豫テ各地主へ可及告示此旨相達候事

書式

地所賣買ニ付地券御書換願

住所

賣渡人 何 某

第何大區何小區何又ハ武藏國何郡何村

一 町何丁目何番地

地價何稅

此賣買代價何程

住所

買受人 何 某

右地所今般賣買約定濟ニ付券狀御書換被下度依テ双方連印ヲ以テ此段奉願候也

地券渡方規則

年月日

右

何某印

何某印

前書ノ通相違無之候也

戸長

何某印

府知事宛

家督相續ニ付地券書換願

住所

何ノ誰死亡跡

相續人

長男

何某

一 宅田畑カ何程  
地價何程

一 宅田畑カ何程  
地價何程

合何筆

右ノ今般家督相續ニ付券狀御書換被下度此段願奉候也

年月日

右

何某印

保證人

保證人ヲ要スルモノハ何某印

同

何某印

戶長

何某印

前書ノ通云々

府知事宛

地所分割賣買ニ付他券御書換願

住所

持主 何某

地券渡方規則

一 宅田畑カ何程

地價何程

外何程

下水敷地又ハ畦地又ハ畔地

住所

一 宅田畑カ何程

地價何程

買受人 何某

此賣買代價何程

外何程

殘テ

右

一 宅田畑カ何程

持續人 何某

地價何程

外何程、

右ハ今般前書ノ通分裂賣買約定相濟候間御書換被下度依テ圖面該地周圍ノ間敷及全地坪數ト分裂スヘキ双方ノ間敷坪數ヲ詳記セル圖面ヲ添付スヘシ相添双方連印ヲ以テ此段奉願候也

右

年月日

何某印

何某印

前書ノ通云々

戸長

何某印

府知事宛

○金穀公借共有物取扱土木起功規則 本朝民鑑坤ノ卷ハ掲ク

(參考) 明治十一年二月二十二日東京府乙第五號ヲ以伊豆國七島ヲ除ク區戸長ハ達

明治九年十一月本廳乙第七十六號ヲ以テ相達シ候町村總代人選舉方第一條中(年齢二十一歳以上)トアルヲ自今(滿二十年以上)ト改正候條此旨相達候事

○控訴上告規則 本朝民鑑坤ノ卷ハ掲ク

(參考) 明治九年四月廿八日司法省第五十號ヲ以大審院上等裁判所警視廳府縣府廳裁判所ハ達

刑事上告中拘置ノ者大審院ノ判決ヲ經サル内ニ前裁判言渡ノ日數滿限ニ至リ候ハ、一先ッ出獄責付可致

金穀公借共有物取扱土木起功規則 控訴上告規則

置候此旨相違候事

(参考) 明治十年七月六日太政官第四十九號布告

民事刑事ノ上告シテ已ニ裁判ヲ經タル者司法卿其裁判ヲ允當ナラスト思量スル者アル時ハ檢事ヲシテ再審ヲ求メシムル事ヲ得ヘシ  
右布告候事

(参考) 明治十一年三月八日司法省號外ヲ以大審院諸裁判所各檢事檢事在サル各縣ヘ達

檢事上告ニ係リ大審院ニ於テ原裁判ヲ破毀シ他ノ裁判ニ移シテ判決セシムルトキ檢事事務取扱方ノ儀是迄區々相成居候處自今凡テ事件ヲ移サレタル裁判所  
所在ノ地ノ檢察官ニ於テ取扱フ儀ト可心得此旨相違候事

○代言人規則 本朝民鑑坤

(参考) 明治十年五月十一日司法省甲第二號布達

代言人滿期ニ至リ尙引續キ免許願出ノ者其免許狀付與候迄ノ間ハ右滿期以前出訴ニ及ヒ取扱掛リノ事件ニ限リ代言苦カラス候條此旨布達候事  
但再ヒ免許セサル者ト雖本文同様心得ヘシ

(参考) 明治十一年二月七日司法省甲第一號布達

代言人規則

代言人規則第十七條左ノ通り増補候條此旨布達候事

代言人規則

第十七條

代言人検査ノ儀ハ第一條ノ外時宜ニ依リ當省ニ於テ直ニ之ヲ検査スルコトアルヘシ

蠶種原紙規則 本朝民鑑抄ノ卷ニ掲ク

(廢止) 明治十一年五月四日 太政官第十號布告

明治七年二月十九號布告蠶種原紙規則同八年三月第四十七號同十年四月第三十九號右規則中改正布告及同八

年二月第三十二號布告蠶種製造組合條例并蠶種製造組合會議局規則同年四月第六十五號條例追加同十年五月第四十二號初度夏蠶種製造方布告共廢止候條此旨布告候事

(參考) 明治十一年五月六日 內務省甲第十一號布達

今般太政官第十號公布ノ趣ニ有之蠶種原紙規則被廢止候ニ付テハ本年製造ノ蠶種ハ營業人共各自勝手ノ紙相用不苦儀ハ勿論ニ候得共從前勸農局ニ於テ立候原紙買受方望ノ者ハ本年限リ左ノ價格ヲ以テ賣下候條來ル六月三十日限リ各所從前ノ蠶種原紙賣捌所ニ申出買受候様可致此旨布達候事

蠶種原紙規則

一 春蠶原紙千枚ニ付 金二十五圓  
二 夏蠶其外用原紙千枚ニ付 金八圓

(參考) 明治十一年五月二十三日內務省乙第四十三號ヲ以府縣ニ達

昨十年用蠶種原紙贏餘紙ノ儀舊規則ニ據リ各地方管轄限リ取纏メ同年九月十五日限リ最寄賣捌所ニ差出買上可相願ノ處往々期限ヲ過差出候向モ有之不都合ノ儀ニ候條差出殘リノ向ハ來ル六月三十日ヲ限リ從前賣捌所ニ差出買上可相願候若右日限ヲ過差出候限一切買上不相成候條管下蠶種製造人共ニ無洩可及布達此旨相達候事

○賣藥規則 本朝民鑑抄

(改正) 明治十年十二月廿八日 太政官第八十九號布告

本年一月第七號布告賣藥規則中第一條第五條第十四條左ノ通改正候條此旨布告候事

第一條 此規則ニ稱スル處ノ賣藥トハ丸藥膏藥煉藥水藥浴劑散藥煎藥等ヲ調製シ効能書ヲ附シ販賣スルモノヲ云フ

第五條 賣藥ヲ請賣セント欲シ其營業者ノ許諾ヲ得タルモノハ族籍氏名ヲ記シタル願書ニ營業者所持ノ免許鑑札寫及ヒ營業者ト取結タル約定書トヲ添ヘ其管轄廳ニ願出免許鑑札ヲ受ケ管轄廳

賣藥規則



第十四條 賣藥營業者及請賣者免許期限中其相續人ニ於テ之ヲ相續スル時ハ其由ヲ記シ管轄廳ヘ鑑札名前書換ヲ請ヘシ

(參考) 明治十年六月二十日內務省乙第五十八號ヲ以府縣ヘ達

賣藥鑑札并ニ請賣鑑札日月日ノ儀ハ從前當府ニ於テ記載下渡來候處遠隔ノ地方營業人ニ交付スルニ至ルハ多少ノ日數ヲ經過免許年限ニ關シ差支モ可有之候條自今右月日ヲ載セス可送達間各地方廳ニ於テ記入直チニ營業人ヘ交付シ鑑札領收証一同記入ノ月日届出候様可致此旨相達候事

(參考) 明治十年七月十三日內務省大藏省乙第六十五號ヲ以テ府縣ヘ達

本年三月內務省乙第三十二號ヲ以テ相達候賣藥規則取扱手續書中左ノ通改正追加候條此旨可相心得且收稅上ニ關スル事件ハ自今總テ大藏省ヘ可伺出此旨相達候事

第四項改正

一 明治八年七月以降本年一月規則發行前ノ鑑札所持ノ者本年六月マテニ廢業届出候分ハ特別ノ詮議ヲ以本年ニ限リ前半期ノ税金ハ免除スヘシ

第六項改正

一 税金并ニ諸鑑札料納附ノ節ハ上納証ヲ添ヘシノ旨ニシテ勘定帳ハ一个年取束ヲ毎年八月三十一

日限リ該地差立大藏省租稅局へ進達スヘシ  
但會計年度ノ都合モ有之本年一月ヨリ六月マ  
ヲノ分ハ別牒ニ製シ八月三十一日限リ該地差  
立同局へ進達スヘシ

第十項改正

一賣藥營業稅并諸鑑札料上納勘定帳離形明治何年  
七月ヨリ同何年六月迄賣藥營業稅并諸鑑札料仕  
上勘定帳

第二項ノ次ニ追加

一營業鑑札請賣鑑札ハ所持人ノ居家ニ限リ營業ノ  
權アルモノニ付別戶支店等ニ於テハ別ニ其居住  
人ニ於テ鑑札ヲ所持スルニ非サレハ營業スルヲ

得ヘカラス

(參考) 明治十年十二月十三日東  
京府甲第九十九號布達

府下ニ於テ明治八年十二月以前ヨリ藥舖開業ノ者へ  
假免狀付與可致旨去九年九月甲第九十七號ヲ以テ及布  
達置候處自然履歷書屆漏ノ者有之候ハ、來十一年二  
月二十八日限リ本人履歷書可差出右期限ヲ經過候節  
ハ假令從前開業ノ者ヲリトモ成規ノ通試験ヲ受ケ候  
儀ト可相心得此旨布達候事

(參考) 明治十一年一月廿一日內務  
省乙第四號ヲ以府縣へ達

昨明治十年十二月太政官第八十九號ヲ以テ賣藥規則

賣藥規則

改正公布相成候就テハ請賣鑑札料紙ノ儀ハ自今大藏省ヨリ可相渡候條該府縣廳名ヲ記入押印致シ上端ニ割印ヲ押シ下附可取計此旨相達候事  
追而此度ノ儀ハ見込ヲ以テ不日配賦可致候條爾後ハ凡一个年分豫算ヲ以テ受取方同省へ可申出事

(參考) 明治十一年一月廿五日東京府庶務課ヨリ區戶長へ達

賣藥營業者並ヒニ請賣者等他管へ轉居等ノ節當廳へ無届ノ者問々有之收税ノ際ニ至リ不都合少カラス候間向後他管へ移住等致シ候節ハ必ラス當廳へ届出ヘキ旨豫テ該營業者へ通達方取扱ヒ有之度此段申入候也

但醫師種痘醫産婆藥舖他管へ轉居或ハ廢業ノ節ハ假免狀相添届出ヘキ旨是又通達有之度候也

(參考) 明治十一年四月二日東京府衛生科ヨリ各大區々戶長へ達

昨明治十年一月太政官第七號賣藥規則發行同六月一日ヨリ右規則ニ抵觸セルモノ罰則施行相成居候處爾來日猶淺シ僻地ノ人民萬一等閑候ヨリ以後犯則ニ陷リ候者有之テハ惘然ノ至リニ付此際一層該規則ニ憑據シ心得違ノ者無之候様營業者へ厚シ説諭ヲ加ヘ置可申事

(參考) 明治十一年六月廿二日警視本署ヨリ各分署へ達

賣藥規則

賣藥營業ノ者取締ノ儀ニ付明治十年七月第六十四號  
達ノ趣キモ有之候處自今規則ニ照シ處分可致此旨相  
達候事

(參考) 明治十一年七月二日東京府庶務課ヨリ各大區へ達

賣藥營業届出ノ節書式一定不致ニ付別紙雛形書式ノ  
通り可届出旨豫テ營業人へ達方取計有之度此段申入  
候也 (別紙略ス)

(參考) 明治十一年二月十五日太政官第四號布告

(參考) 明治十一年二月廿八日大藏省乙第十號ヲ以テ府縣へ達

(參考) 明治十一年六月廿七日東京府第十七號ヲ以テ區務所へ達

右三件附録卷ノ五船稅規則ノ部へ掲クルヲ以此所ニ零ス

○日本坑法 本朝民盤坤ノ卷へ掲ク

(參考) 明治九年六月十九日太政官第六十六號ヲ以使府縣へ達

鑛山鐵道燈臺電信等ニ係ル會社設立願出候節ハ自今工部省へ可伺出此旨相達候事

(參考) 明治十年十月九日內務省甲第廿一號布達

日本坑法第一章第三款ニ屬スル土石掘取規則ノ儀ニ

日本坑法

付昨九年當省甲第三號ヲ以相違置候通土石料之儀ハ  
是迄百分ノ一ヨリ二十迄ノ處自今更ニ百分ノ一ト定  
メ開坑願書式共別紙ノ通更正候條此旨布達候事

土石堀取規則

此規則ハ日本坑法第一章第三款所屬ノ土石  
硯石 版石 石盤 石灰石 鑛類ニ限リ之レヲ施行スヘシ

第一條 官有地ノ土石ヲ開坑試堀セント欲スルトキ  
ハ別紙書式ニ照シ繪圖ヲ副ヘ地方廳ヲ經テ當省ヘ

願出ヘシ

第二條 官有地ノ開坑ハ土石料トシテ一个年堀出シ  
タル坑物代價即チ山元賣拂直段ノ百分ノ一ヲ上納

第三條 凡ソ石ハ一尺立方ヲ以テ一切トシ切以下ハ  
分厘ヲ以テ之ヲ算シ土砂ハ六尺立方ヲ以テ一坪ト

シ坪以下ハ合勻ヲ以テ之ヲ算スルモノトス  
土石堀取願書式

何石堀出願

字何山林原野田畑ノ内

官有地何坪

一試開坑場何坪

何石何切何分何厘 壹个年堀出見込高  
此山元直段凡何圓何錢 一切ニ付何錢

此上納代料何圓何錢

何个月季 明治何年何月ヨリ  
全何年何月マテ

(朱) 但試堀ハ堀出高並山元直段上納代料共記載  
ニ及ハス

右地所ニ於テ何々試堀坑仕度候間御聞届被下度奉願候

何府第何大區何小區  
何縣何郡何村何業

明治何年何月何日

何某印

何府知事何某殿

(參考) 明治十一年二月五日  
太政官第三號布告

開拓使管内鑛山借區稅ノ儀詮議ノ次第有之當分其營業月數ニ應シ月割ヲ以テ徵収候條此旨布告候事

○度量衡三器改定規則 本朝民鑑抄ノ卷ニ掲ク

(參考) 明治十年五月廿三日大藏省  
乙第十九號ヲ以府縣ニ達

權衡原器ノ儀千木秤八種ニハ其衡ニ量目文字ヲ標記候  
得共鈞皿秤以下八種ノ小秤ニハ舊貫ニ仍リ量目標記不  
致候處自今製作致候鈞皿秤以下八種ノ小秤ニモ千木秤  
ニ准シ鈞皿秤鍵秤ハ其衡銀秤厘秤ハ其藏函ノ内面ニ量  
目標記致候樣製作人ニ可申付候尤先般當省ヨリ相渡置  
候原器ニモ右同標標記致シ可置候此旨相達候事

○行政警察規則 本朝民鑑抄ノ卷ニ掲ク

度量衡三器改定規則  
行政警察規則

(參考) 明治十一年七月十二日太官政第

近來各地方ニ於テ國事政體ヲ談論スルノ目的ヲ以テ  
何某社ト稱シ或ハ演說會ヲ開キ多衆聚合スルモノ有  
之趣相聞右警察官ニ於テ視察ヲ加ヘ萬一其舉動民心  
ヲ煽動シ國安ヲ妨害スルニ涉リ候者ト看認候節ハ東  
京府下ハ警察長官各地方ハ其長官ヨリ令禁止其事情  
ヲ具ヘ内務卿ヘ可届出此旨相達候事

○司法警察規則 本朝民鑑坤

(參考) 明治十年二月廿五日  
太政官第廿二號布告

變死ニ係ル屍ヲ警察官吏検査スル時ニ於テ解剖ヲ行

ハサレハ其致命ノ理由ヲ確知シ難キ旨醫師申立ル時  
ハ檢事(檢事派出ナキ地方ハ其地方長官)ノ許可ヲ受ケ  
其部分ヲ解部検査セシムルヲ得

(參考) 明治十一年六月十七日司法省號外  
以太密院諸裁判所各檢事及府縣ヘ達

罪人受取方ノ儀ニ付左ノ通太政官ヘ相伺候處伺ノ通  
御指令相成候條爲心得此旨相達候事

○罪人受取方手續ノ儀ニ付伺  
罪人受取渡方手續ノ儀凡テ明治八年本省達第九號  
ニ照據爲致來候處昨明治十年第四十九號太政官達  
中其他ノ罪囚云々トアルヲ以テ見レハ甲地ヨリ乙  
地ニ罪囚受取人ヲ派遣スルヲ要セサルニ付自然右

司法警察規則

本省達ハ取消相成候儀ト相心得候得共爲念相候條至急仰御指令候也

明治十一年三月六日

司法卿大木喬任

太政大臣三條實美殿

伺ノ通 (明治十一年五月九日)

(參考) 明治九年四月廿日太政官第

三十九號ヲ以て使府縣ニ達

明治七年一月第十四號達司法警察規則廢シ候條此旨相

達候事

但同年九月第二百二十八號達司法警察規則附録ハ廢セス

(參考) 明治十年一月十六日太政官第七

號ヲ以て東京府ニ除テ府縣ニ達

東京府下警察事務ノ儀ニ付別紙ノ通同府ニ相達候條爲心得此旨相達候事

東京

其府下警察事務ノ儀ハ内務省大警視ヲシテ直管執行セシメ候條此旨相達候事

但シ大警視ハ其直管執行ノ事務上ニ就テハ特ニ各省使長官ノ命ヲ奉シ又其場合ニ於テハ司法警察ノ事務ヲ兼行候事

(參考)

明治十年二月十六日太政官第二十七號ヲ以

内務省陸軍省海軍省開拓使並沿海府縣ニ達  
臨時騷擾ノ際海港警備ノ儀ハ追テ方法確定候迄當分  
左ノ通相定候條此旨相達候事

二七三



第一條 陸海軍ノ兵員并ニ警察官吏ニ非サル者銃器  
或ハ刀劍ヲ携帯シ各海岸ヘ揚陸セントスル者ハ上  
陸ヲ許シ其異狀アルモノハ直チニ軍艦ヨリ兵力ヲ  
以テ拒絶スヘシ

第二條 各海港ニ來舶スル船舶乗組ノ内武器ヲ携帯  
セスト雖モ多人數黨ヲ組ニ其形狀疑シキ者アル時  
ハ其上陸ヲ差留メ置キ直チニ地方警察官吏ニ通牒  
シ支障無之ニ於テハ上陸ヲ可差許若シ其制止ヲ不  
承諾強テ上陸スルモノハ第一條ノ如ク兵力ヲ以臨  
時ノ處分ニ及フヘシ

第三條 商船等ニ陸海軍并ニ警視局ノ所轄ニ非サル  
兵器彈藥等ヲ貯藏運送スル者ヲ見聞スルキハ其事

由キ糾シ疑キ廉有之ニ於テハ直チニ取押ヘシ若  
シ拒絶スル者ハ兵力ヲ以テ臨時ノ處分ニ及フヘシ

○難船救助心得 本朝民鑑坤

(參考) 明治九年十月十四日太政官  
第九十九號ヲ以使府縣ヘ達

朝鮮國ヘ渡航ノ者免狀願受ノ儀今般第百二十八號布  
告ノ通心得兼テ外務省ヨリ海外行免狀航海公證トモ  
受取置願出ノ者ハ明治三年正月十九日及同七年(八  
月)第百八十八號布告ノ手續ヲモ參酌シ免狀證書トモ相  
渡スヘシ此旨相達候事

(參考) 明治九年十一月十八日太政  
官第百十號ヲ以使府縣ニ達

難船救助心得

明治元年六月同六年八月第二百八十二號第二百八十三號布告同七年十月第三百三十四號達朝鮮國人民漂着ノ節處分規則左ノ通改定候條此旨相達候事  
 但費用ノ内公費ニ可相立分ハ一時預備金ノ内ヨリ拂出シ退テ明細仕譯帳並ニ証書類相添受取方内務省へ申出ヘシ

一朝鮮國人民本邦へ漂着候節其地ヨリ同國釜山港へ便船於有之ハ直チニ該日本人民管理官へ宛送届ヘシ便船アラサルヒハ長崎縣廳及對州嚴原同縣支廳ノ内へ送致スヘシ同廳ヨリハ釜山港へ發スル船ニ托シ送届スヘシ  
 一漂民衣服缺乏ノ者ハ時衣一領公費ヲ以テ支給ス

ヘシ

一漂民滞在中ノ費用及彼國へ送致ノ費用等ハ彼國政府ヨリ一日金拾錢ヲ出スヘキ約束相成候ニ付右ヲ目的トシ漂民取扱方成ルルニ簡易ニ致シ不足ノ分ハ公費タルヘシ  
 一漂民健康ナラハ本國ニ引渡ス迄ハ成ルヘキ丈ケ工業ニ就カシメ相當ノ工錢ヲ付與スヘシ但其工錢ハ右朝鮮政府ヨリ出スヘキ日給錢ヲ差引ヘシ  
 一溺死及漂着後病没ノ者ハ彼地へ棺送ニ及ハス埋葬シテ其事由ヲ外務省へ報知スヘシ

(參考) 明治六十年七月廿五日内務省  
 乙第六十八號ヲ以府縣へ達

日本海岸ニ於テ英國船舶難破救助ノ費用向後別紙條目ノ通區別ヲ立差出相成候條右ニ憑據可致處分左取扱方ノ儀ハ從前ノ通可相心得此旨相達候事

一英國船日本海岸ニテ難破ノ節官吏及巡查并區戸長等其場所へ出張ノ諸費官員困難人ヲ護送ノ旅費其他官府ノ間ニ報告スル諸費ハ總テ御國政府ノ給スル所ヨリ但難破セル者又ハ英國政府ヨリ償却セシムヘキ分左ノ通

第一 救助人足及大小船雇賃并沈沒荷物引上人足賃

第二 船或ハ其破損諸具及荷物番人雇賃

第三 困難船事件ニ相用タル薪炭蠟燭及破船場番

小屋取建費其他雜費

第四 困難人ニ給セシ衣類及賄料其他諸物品代

第五 言語不通ノ爲官員ニ非ナル通辨人雇料及費用

第六 困難人開港地へ發足ノ節荷物運送及途中諸費用

第七 困難人溺死シタル時其搜索入費

第八 同前ノ者死傷スルキ治療埋葬入費

○内國難破船救助漂流物取扱規則 本朝民鑑坤

(參考) 明治九年十二月廿一日 太政官第百十七號ヲ以開拓使及沿海府縣へ達

内國難破船救助漂流物取扱規則

從來浦役人ノ名稱有之候得共其事務ノ定限モ無之ニ付自今左ノ條款ニ從ヒ浦役場ヲ設置シ浦役人ヲ命ス可シ此旨相違候事

第一條 浦役場ハ沿海大市及ヒ商船輻輳ノ地ニ於テハ便宜ノ場所ヲ撰テ之ヲ設置ス

第二條 浦役場ハ當分ノ中區務所等ヲ以テ代用シ浦役人ハ區長若シハ兵長ニ兼勤申付書記用掛等ヲ補助セシムヘシ

第三條 浦役人ハ其地繫泊ニ關スル庶務(警察事務税關事務其他主管アル事務ヲ除キ)及ヒ難破船取扱難破浦証交付與等ノコヲ掌ヲシムヘシ

第四條 浦役場設置地名ハ明治十年三月三十一日限リ內務省ニ報告シ以後毎年十二月中ニ其廢置變換等ヲ同省ニ報告スヘシ

○遺失物取扱規則 本朝民鑑卅

(參考) 明治十年九月廿七日內務省甲第二十號布達

明治九年四月太政官第五十六號ヲ以テ遺失物取扱規則中第六條埋藏物掘得ル者處分ノ釐公布相成候處右物品ノ中古代ノ沿革ヲ徵スルモノモ有之候ニ付處分前一應當省ニ届出檢査ヲ可受其品ニヨリ相當代價ヲ以購求シ官私中分ニ係ルモノハ其價額ノ半高ヲ掘發人ニ下附シ該物品ハ永ク博物館ニ陳列可致候條此旨布

遺失物取扱規則

達候事

但物品ハ先ツ掘出地名及形狀等ヲ詳記シ及ヒ撰寫  
スルモノヲ郵送シ其見込アルモノニテ遞送方相達  
候後本文ノ通可取計候事

(參考)

明治十一年四月五日警視  
本署ヨリ各課各分署へ達  
遺失物及ヒ置贓物漂流物等取扱心得左ノ通り相定候  
條此旨相達候事

但從前ノ達指令等之ニ抵觸スルモノハ取消ノ儀ト  
可相心得事

遺失物及ヒ置贓物漂流物取扱心得

第一條 遺失物及ヒ置贓物ヲ得ルノ訴アル時ハ各

署五ニ通報シ第一號書式ニ準シ三十日間揭示ス

但シ置贓物ノ揭示ハ探索張込等ヲ要スル者ニ  
限リ便宜猶豫スレテ得

第二條 漂流沈没ニ係ルノ物品若クハ船筏材木等

夫得ルノ訴アルトキハ總テ明治八年太政官第六  
十六號公布ニ照シテ處分シ其揭示書式ハ遺失物  
ニ準スヘシ

第三條 價額十圓以上ノ物品又ハ十圓以上ノ金銀  
及ヒ諸車輛筏其他物主ニ於テ必須ト思量スヘキ  
物品新聞紙ニ掲載廣告ノ爲メ其件名ハ勿論得者  
ハ姓名及ヒ拾ヒ得タル處ノ地名并ニ月日等詳細

遺失物取扱規則

記載シテ速ニ本署へ開申スヘシ

第四條 其本署へ開申シ新聞紙へ掲載廣告スルモ  
ノト雖モ必ス各署ニ揭示シ而シテ其處分ノ顛末  
モ亦本署へ届ケ出ヘシ

第五條 一時出京セシ他管下ノ人民遺失物等ヲ拾  
ヒ得テ訴出ルモノ一年內歸國スルトキハ後日處  
分ノ爲メニ代理人ヲ立置カシムヘシ若シモ代理  
人ナクシテ歸郷セシトキハ處分上手續ヲ添へ本  
署へ開申シ本署ヨリモ報勞金(物主ナキ時ニ其原  
物)等ヲ便宜送致ス  
但シ送致ニ付テノ費用ハ其金額又ハ物件中ヨ  
リ引去ルヘシ

第六條 凡遺失物一年內ニ物主明白ナルトキハ双  
方(代理人ニテモ妨ケナシ)呼出ノ上遺失物取扱規  
則第四條ノ通り入費并ニ報勞金等ヲ附與スヘキ  
旨ヲ物主へ申渡スヘシ若シ物主ニ於テ報勞金等  
ヲ附與セス或ハ故障ヲ申立ル者アル時ハ更ニ取  
調へ相當ノ處分ヲナスヘシ

第七條 前條申渡ノ上得者ニ於テ入費并ニ報勞金  
ヲ受ケス其品ヲ物主ニ全還シ或ハ物主ヨリ得者  
ニ例外ノ謝金ヲ與フル等相對示談スルハ双方隨  
意ナルヲ以テ之ヲ准理スルニ及ハス

第八條 遺失物ノ價額ヲ争フ者アルニ由リ評價人  
ヲ雇ヒタルトキノ給料ハ遺失物價額中ヨリ拂ハ

シムヘシ

但雇料ハ一日五十銭ノ割ヲ以テスヘシ

第九條 揭示日限ヲ過キ物主ナキ遺失物ノ内長大

ニシテ領置不便ノモノ又ハ破損シ易キ者等ハ遺

失物取扱規則ニ準擬シテ之レヲ公賣シ其ノ代價

ヲ以テ現物ト見做シ一年間領置スルコトヲ得ヘシ

尤モ貴重并ニ希有ノ物品ハ此限ニアラス

但シ諸車ヲ公賣スルキハ其檢印ヲ削除スヘシ

第十條 漂流物ニ在テモ長大又ハ腐朽ノ虞アリテ

耐久領置シ難キモノハ前條ニ準シ處分スルヲ得

但船筏ハ此限ニアラス

第十一條 甲署管轄地内ニ於テ遺失物ヲ得テ乙署

ニ出訴スル者アルトキハ其所管ノ自他ヲ論セス

總テ訴ヲ受ケタル署ニ於テ處分スヘシ

第十二條 官沒ノ遺失物ハ第四課ニ置贓物又ハ應

禁物等ハ第三課ニ(第三號書式ニ準シ)明細書ヲ副

ヘテ納付スヘシ

第十三條 官廳内ノ遺失物ハ何人ノ拾取スルニ論

ナク一年内ニ物主アルハ之ヲ全還シ物主ナキハ

官沒スヘシ

第十四條 鐵道列車内并ニ「ステーション」ニ遺失シ

タル物品ハ前條官廳内ノ遺失ニ擬シテ處分スヘ

シ

第十五條 陸海軍及ヒ警察官其他官ノ徽章アル服

帽ヲ拾ヒ得ル者ハ通常遺失物ヲ以テ論ス  
但シ一年内ニ物主ナクシテ之ヲ得者ニ給スル  
ルハ其徽章ヲ去ルヘシ

第十六條 私印ヲ拾ヒ得ル者ハ通常遺失物ヲ以テ  
論ス其一年内ニ物主ナクシテ得者ニ給スルトキ  
ハ其印面ヲ磨滅スヘシ

但外印等ノ外書畫遊印ノ類ニテ後害ノ虞ナキ  
者ハ磨滅ノ限ニアラス

第十七條 金穀貸借証券若クハ爲替手形切手ノ類  
ヲ得ルモノ物主ニ於テ必用トスル時ハ相當ノ報  
勞金ヲ出シ又ハ費用等ヲ償ナハシメ其不用ナル  
ハ双方目前ニテ之ヲ破毀スヘシ

第十八條 車中ノ遺失物ヲ車夫或ハ車主ヨリ訴ヘ  
出一年内ニ物主明白ナレハ之ニ還付シ相當ノ費  
用ヲ償ハシムヘシ若シ物主明白ナラサルトキハ  
車夫或ハ車主ヘ給付スヘシ

第十九條 郵便物ヲ拾ヒ得テ訴出ルトキハ該品ヲ  
驛遞局又ハ最寄郵便局ニ交付シ其報勞金入費金  
等ノ如キハ遺失物取扱規則第十條ニ依リ驛遞局  
ヨリ拂ハシム可シ

第二十條 郵便切手并ニ証券印紙等ヲ拾ヒ得ルハ  
通常遺失物ノ例ニ依テ處分スヘシ

第二十一條 飲食物ヲ拾ヒ得ル者其原價五十錢未  
滿ト見做スヘキモノハ直ニ得者ニ全給スヘシ

遺失物取扱規則



第二十二條 放逸セル牛馬等ヲ緊留シテ訴出ルト  
キハ之ヲ本人ニ領置セシメ若シ其ノ領置シ難キ  
ハ便宜之ヲ所置シ遺物取計規則第八條第九條第  
十條ニ照シ處分スヘシ

第二十三條 兎ハ直ニ得者ニ給與スヘシ  
但シ蓄養セントスル者ハ納稅スヘキ旨ヲ申聞  
ヘシ

第二十四條 火災ノ後其ノ場ニ遺却セル物品ヲ拾  
ヒ得ル者物主明白ナレハ双方ノ事情ヲ量リ或ハ  
物主ニ全還シ又ハ費用報勞金等ヲ拂ハシムルコ  
アルヘシ

第二十五條 無檢印ノ舟車ヲ得者期限内ニ物主明  
白ナレハ先ツ其ノ無檢印ノ事由ヲ糾シ犯則ト認  
ムルモノハ其ノ向ヘ送付シ處分濟ノ上更ニ漂着  
物或ハ遺失物取扱規則ニ照シテ其處分ヲ爲スヘ  
シ

但シ期限内ニ物主ナクシテ給スルトキハ府廳  
ニ申出檢印ヲ受クヘキ旨ヲ申聞ヘシ

第二十六條 邸内空屋或ハ藩園アル地内等ニ遺棄  
シタル物品ヲ拾ヒ得ルモ亦第二十四條處分ニ依  
ルヘシ

第二十七條 盜賊去リシ跡ニ捨置タル物品ハ其賊  
ヲ得レハ物品ヲ併テ第三條ニ送付シ若シ一年内  
ニ其賊縛ニ就カザレハ官沒ス可シ

遺失物取扱規則

但事主明白ナルモノハ賊縛ニ就カスト雖モ直ニ還スヘシ尤罪証及ヒ探偵ノ用ニ供スル爲メ便宜之ヲ領置スルヲ得ヘシ

第二十八條 浴室或ハ客店等ニ於テ他ノ物品ト換易シ殘シ置タル物品ハ三十日間ニ其蹤跡ヲ得サレハ被換者ニ給ス可シ若シ被換者知ルヘカラサルトキハ一年間領置ノ上其店主ニ給ス可シ

第二十九條 市店ノ物品ヲ買フト稱シテ其代價ノ代リニ預ケ置キタル物品若シハ酒食料ニ引當シ預品ハ三十日內ニ蹤跡ヲ得ス及ヒ其事主不分明ナルハ被換者又ハ預主ニ給ス可シ但探偵ノ用ニ供スルヲアルトキハ一年間領置

スルヲ得

第三十條 凡ソ茶店酒肆等ニ於ケル預ケ品及ヒ遺失物主ハ一个年內ニ事主分明ナラサレハ店主ニ全給スヘシ

第三十一條 凡ソ一時隠埋セシ處ノ物品ヲ得ル者ハ諸人ノ自在ニ出入通行ヲ得ルノ場所ニ於テセルハ遺失物取扱規則ニ依テ處分スヘシ

第一號 揭示書式

一金何圓何十錢 一何品何個 一、一、一、  
右何月何日(夜)第何大區何小區何村町ニ於テ何ノ誰拾ヒ得(又ハ漂着)候處訴出候條心當リノ者ハ速ニ書面ヲ以テ當署(警視第何方面何分署)ニ可申出事

年號月日 東京警視第何方面第何分署

第二號

一何品 何個 一、一、一、一、

右ハ何月何日 縣府何大區何小區何村町海岸ハ漂着候旨

該府縣ヨリ通知有之候條心當リノ者ハ速ニ書面ヲ

以テ所轄ノ警視分署へ可申出候事

年號月日 、、、、、、、前ニ同シ

第三號記

一金何圓錢也

但何々件ニヨリ何月何日沒収スル分

一何品 何個

但同上

合計金何圓錢物品何個

右ハ當分署ニ於テ沒収候ニ付納付候也

年號月日 第何方面第何分署長

官氏名印

○鳥獸獵規則 本朝民鑑坤

ノ卷ハ揭ク

(改正)

明治十年十二月十七日 太政官第八十五號布告

本年一月第十一號布告鳥獸獵規則第九條へ但書同第

十八條左ノ通追加候條此旨布告候事

第九條

一獵銃ハ云々

鳥獸獵規則

但開拓使管内ニ限リ和銃玉目拾及以下ヲ用フ  
ルヲ得ヘシ

一開拓使管内ニ入リ鹿獵ヲ爲ス者ハ該使施行ノ規  
則ニ遵フヘシ

(參考) 明治十一年五月二十四日  
太政官第十一號布告

銃獵免許ノ者及有害ノ鳥獸威シ銃室内射的場營業免  
許ノ者等需用ノ彈藥雷管ニ限賣買手續左ノ通相定候  
條此旨布告候事

銃獵免許ノ者及ヒ有害ノ鳥獸威シ銃室内射的場營  
業免許ノ者等需用ノ彈藥ヲ買ハント欲スル時ハ其  
免狀若クハ免許證ヲ以テ彈藥賣買免許商人ニ示シ

以テ其免許人タルヲ證スヘシ

彈藥賣買免許商人ハ右ノ免狀若クハ免許證ヲ認メ  
正確ナリトスル時ハ左ノ程限ニ照シ之ヲ賣渡シ其  
姓名及ヒ數量等ヲ詳記シ月々其管轄東京ハ警ヘ届  
出ツヘシ

西洋形獵銃用 彈藥 散彈ノ類 二千發

同上用 雷管 四千粒

火繩銃用 威シ銃用 火藥 一貫目

室内銃用 雷管 一萬粒

右一次賣渡シ最多ノ程限トス若シ一次此程限外ノ  
彈藥雷管ヲ買ハント欲スル時ハ銃砲取締規則第二  
條ニ從フヘシ

(參考) 明治十年五月廿六日內務省乙

鳥獸獵免狀遺失致候モノ届出方は迄區々ニ相成居候處右ハ自今其都度當省勸農局ニ通知候様可致此旨相達候事

(參考) 明治十一年五月二日內務省

號外ヲ以東京警視本署ニ達

鴉鴉獵規則

第一條 東京府下朱引内外ノ地ニ於テ有害ノ鴉鴉等射殺スル之ヲ鴉鴉獵トス  
第二條 鴉鴉獵手ハ大警視ニ於テ警部巡查ノ内精撰シ之ニ證券ヲ付與ス

第三條 射手ハ每三名ヲ以テ一組トシ取締ノ爲警部若クハ警部補ノ内一名必ス之ヲ率ユルモノトス  
第四條 鴉鴉獵ハ西洋形獵銃ニ限ルヘシ軍用銃ヲ用ユルヲ禁ス

第五條 朱引内ニ於テスル鴉鴉獵ハ皇城及ヒ陸軍省所轄地并ニ守衛地ヲ除クノ外郭内芝上野護國寺山内ヲ定獵場トス

第六條 定獵場ノ外朱引内官署社寺民家等ニ屬スル森林ト雖ヒ鴉鴉群集シテ害ヲ爲シ射殺ヲ要スルコトアレハ豫メ該地主及ヒ最寄警視分署ニ通牒シ臨時之ヲ射殺ス

第七條 朱引外銃獵ノ禁セサル地ニ於テ一般ノ鳥

鳥獸獵規則

獸獵規則ニ因ルヘシ其銃獵禁制ノ地ニ於テハ第六條ノ手續ヲ爲スヘシ

第八條 鵜鴉獵ハ日出ヨリ日没ヲ限トス

第九條 出獵スル者ハ必其證券ヲ攜帶スヘシ出獵中警視官吏區戶長等證券ヲ看ント請フキハ直ニ之ヲ示スヘシ

第十條 鵜鴉獵ハ其有害ヲ掃除スル爲メ行フモノタルヲ以テ無害ノ鳥獸ヲ射殺スヘカラス

第十一條 鵜鴉獵ヲナスニ方リ已ムヲ得サル場合ト雖トモ家屋人畜ニ向テ銃ヲ擬シ或ハ垣牆ヲ破壊シ田畑ヲ蹂躪スル等ヲ嚴禁ス

第十二條 獵銃ハ四十五度以下ノ弧角ヲ以テ打放

スヘカラス又裝填銃ヲ携ヘ漫リニ歩行スヘカラス

第十三條 警視官吏ニテ危險又ハ妨害アリト認メ臨時鵜鴉獵ヲ止メント請フキハ發射ヲナスヘ

カラス

○銃砲取締規則 本朝民鑑坤 卷一 揭ク

(參考) 明治十年二月十三日太政官 第二十六號ヲ以使府縣ヘ達

銃砲彈藥ノ儀陸海軍省及鎮臺用向ヲ除クノ外平常免許ノ者ヲリモ當分ノ内賣買運送嚴禁候條此旨至急可相達候事

(參考) 明治十年二月十四日太政官 第廿九號ヲ以使府縣ヘ達

銃砲取締規則

明治十年二月廿六號達中鎮臺ノ下ニ并警視官ノ四字  
追加候條此旨相達候事

(參考) 明治十年六月廿九日警  
視局甲第十七號布達

銃砲彈藥賣買ノ儀嚴重取締可致旨兼テ公達ノ趣モ有  
之候處鉛ノ義ハ漁網必用ノ品ニテ營業上差聞モ不少  
哉ノ趣就テハ漁獵ノ鉛賣買致候者ハ實際入用ノ分量  
等詳記シ戶長加印ヲ以テ警視本署へ可願出此旨布達  
候事

(參考) 明治十一年五月二十四日太政官第十  
七號ヲ以開港開市場有之使府縣へ達

銃砲彈藥賣買免許商人外國人ト銃砲彈藥類賣買願出

候節取扱方ノ義ハ明治七年七月第九十九號八年六月  
第十一號達ノ趣有之候處今般第十一號布告ノ趣モ  
有之ニ付自今銃獵免許狀付與有之外國人へ獵用ノ銃器  
彈藥類賣渡候義ハ其應限リ聞屆候義ト可相心得此旨  
相達候事

但免許商人ヨリハ其姓名數量等ヲ記載シ其時々爲  
届出候様可取計事

(參考) 明治十一年四月二十二日內務省乙第三十六號  
ヲ以東京警視本署并東京府ヲ除ク府縣へ達

甲管應ニ於テ改印セル軍用銃所有者轉籍寄留等ノ故  
ヲ以乙管下へ持越シタル后ヲ献納廢棄讓渡等願出ル  
時ハ乙管應ニ於テ聞屆其趣甲管應へ報告シ甲乙兩廳

銃砲取締規則

簿冊ヲ加除候様可致此旨爲心得相違候事

(參考) 明治二十一年六月十四日警視局  
乙第二十二號ヲ以區戶長へ達

銃獵免許人其他免許ノ者等需用ノ彈藥雷管賣買ノ儀  
ニ付本年太政官第十七號達ノ趣モ候處外國人ニ限リ  
是マテノ通警視本署へ願出候様該營業人へ可相違事  
但シ銃器彈藥賣買表届出方ハ従前ノ通り可相心得  
事

○毒藥劇藥取扱規則 本朝民鑑坤ノ卷へ掲ク

(參考) 明治三十一年四月十八日內務省  
乙第三十五號ヲ以府縣へ達

近年アニリン其他鐵屬製ノ繪具染料ヲ以テ飲食物ニ  
着色スルモノ不勘越ニ候處右ハ自然入身ノ健康ヲ害  
スルハ勿論中ニハ甚シキ中毒ニ罹リ忽地ニ非命ノ横  
夭ヲ致スモノモ有之危險ノ至リニ候條各地方廳ニ於  
テ注意取締可致旨相違候事  
追テ地方慣用ノ品ニヨリ毒性分ノ有無判然致シ難  
キモノハ其原物相添當省衛生局へ照會試驗ヲ受可  
申事

○外國船乘組規則 本朝民鑑坤ノ卷へ掲ク

(參考) 明治三十一年四月五日太政官第  
十一號ヲ以官院省使府縣ニ達

毒藥劇藥取扱規則  
外國船乘組規則



内務省ニ於テ英佛兩國郵便船乗組切手發行候ニ付本年四月一日ヨリ官員及ヒ海外官費留學生等該兩國郵便船ニテ航海ノ節ハ別表ノ通り船賃及ヒ船中諸費ノ額ヲ支給可致尤モ切手受取方ノ義ハ明治九年同省乙第百十四號及ヒ本年乙第五號達ニ準據可致此旨相達候事

但シ旅費定則中掲載有之分ト雖モ別表ニ記載ノ分ハ本文ノ通可相心得尤モ表面外ノ地ニ渡航ノ節ハ一般ノ定則ニ據ルヘシ (表畧ス)

○西洋形商船船長運轉手機關手試檢規則本朝民鑑附錄卷ノ一ニ掲シ

(參考) 明治十年十月八日東京府乙第八十七號ヲ以區戶長ニ達

昨九年太政官第九十四號ヲ以百噸五十馬力以下運送船々長機關手試驗免狀規則公布并同年第百五十七號ヲ以追加公布相成候ニ付尙本年五月當府乙第四十四號ヲ以注意方相達置候通當七月一日ヨリ實施可相成筈ノ處九州地賊徒追討ニ付御用船相成候向等未ク應分ノ免狀難相受者モ有之哉ニ相聞右ハ事實無據筋ニ付本船御用解ノ上速ニ試驗願出候様其筋達ノ趣モ有之候條西洋形船所持主共ニ無洩懇諭可致此旨相達候事

(參考)

明治十一年六月廿六日東京府甲第二十四號布達

今般海軍兵學校ニ於テ機關科生徒十二名ヲ限リ別紙表面ニ因リ撰舉候旨同省ヨリ達越候條志願ノ者ハ來七月一日迄ニ離形ノ願書三通當廳ニ可差出此旨布達候事

一當明治十一年八月當校ニ於テ機關科生徒十二名撰舉候條志願ノ者ハ華士族平民ヲ論セス當七月三日限リ左ノ離形ノ願書東京府ヲ經テ當校ニ差出スニ但當府在住若シクハ寄留ノ親戚等ニテ身元引請可致事  
願書案料紙美濃紙ニツ折扣共二通可出

何府縣華士族平民何某或ハ弟東京何大區何小區何町何番地在住若クハ寄留

何年何月何日於何國何郡何地生父兄住所何々

何某 十一年七月何年何月

右之者海軍志願ニ付海軍兵學校ニ於テ御檢査ノ上機關科生徒ニ入校奉願度候間海軍兵學校ニ御通達可被下此段奉願候也

何府縣華士族平民東京何大區何小區在住或ハ寄留

何町何番地

身元引請人

何某 印

明治十一年月日

東京府  
御中

前書ノ通願出候條御檢査ノ上合格候ハ、入校御  
計容相成度此段申副候也

明治十一年月日

東京府

海軍兵學校

御中

折返裏

一當七月當校ニ於テ右志願ノ者ヲ檢査シ合格ノ者ハ  
八月入校ヲ許ス

一第一身體ノ檢査

一第二試験ノ科目左ノ如シ

日本學 算術 代數學 英語學

英文習字 地理學 幾何學

一入校生徒年齡ハ當七月ニ至リ十三歳ヨリ滿十五歳

マテタルヘシ

一生徒入校ノ節ハ終身海軍ニ従事スベキ誓書ヲ爲ス

ヘシ

一右生徒ハ入校ノ日ヨリ衣服ハ勿論其他ノ諸具ニ至

ル迄悉ク官費ヲ以テ給與スベシ

但青色ノ「フランク」二枚續キ三枚靴二足靴刷

毛一ツ「フ」ヲテ下編絆五枚下股引五枚靴下足袋

十足稽古用筆墨紙并ニ必用ノ手道具等ハ始メ入  
校ノ節而已持參可致事

明治十一年六月

海軍兵學校

### 北海道產物出港稅則

本朝民鑑附錄  
卷ノ一〜掲ク

(參考)

明治十一年七月四日  
開拓使甲第六號布達

當使管内ニ於テ貨物積取リ日本形商船ハ都テ船稅鑑  
札ヲ檢査シ鑑札面ニ超過スル荷物ハ一切積載不相成  
旨昨十年一月甲第一號縣府乙第一號(管内)ヲ以テ及布  
達候處詮議ノ次第有之右制限ノ儀ハ自今相廢更ニ鑑  
札面ニ拘ハラヌ船腹外面筋板一枚ヲ沈ムルヲ則トシ

船材ノ堅硬ト薄弱トニ依リ少差ノ浮沈ヲ斟酌シテ其  
能力ヲ密査シ航海適當ノ船脚ヲ以テ貨物積載差許候  
方法ニ相改メ積取場ノ船改所或ハ地方役所又ハ區戶  
長役場ニ於テ査定致候ニ付右船脚ニ超過スル荷物ハ  
一切積載不相成尤モ積取場ニ於テ其筋ノ檢査ヲ經ス  
密ニ積載候モノハ都テ其超過ノ荷物ヲ沒収候條此旨  
布達候事

(參考)

明治十一年七月八日  
開拓使甲第七號布達

昨明治十年第五十六號御布告北海道諸產物出港稅則  
並ニ各港船改所規則第四條第五條第六條ニ據リ廻漕  
ノ諸船舶北海道各港津々ニ於テ貨物積卸檢査ノ手續

### 北海道產物出港稅則

左ノ通相定候條此旨布達候事

第一條 諸船舶北海道各港津ニ於テ諸貨物積卸ノ節ハ其積卸前貨物ノ總目錄(積荷目錄アルトキハ之ヲ兼用ス)ヲ船長ヨリ其港船政所或ハ地方役所(又ハ區戸長役場以下同シ)ニ差出シ改所役所ハ右目錄ニ照シ波止場ニ於テ其品目數量ヲ檢スヘシ尤船舶幅湊ノ節ハ舢舨毎ニ切符ヲ附與シ本船ノ積卸ヲモ監視スルコトアルヘシ

第二條 各港津ニ於テ定メタル波止場ノ外ニ於テ諸貨物ヲ積卸シ或ハ船移シスヘカラス尤已チ得サル事故アルトキハ其事由ヲ具シ其港船政所或ハ地方役所ニ願出スヘシ

但北海道諸產物ニ限リ日没ヨリ日出マテノ間ハ積卸及船移シスルヲ許サス

第三條 北海道内廻漕ノ船舶第一條ノ手續ニ隨ヒ各港津ニ於テ檢査濟ノ北海道產物ヲ積卸セシトキハ其港船政所或ハ地方役所ニ於テ出港稅則第五條ニ據テ付與スル檢印帳ニ其品目數量ヲ加書スヘシ尤其船府縣ニ廻漕ノ節ハ右檢印帳ニ據リ出港稅則第六條ノ手續ヲナスヘシ

但出港稅収納ノ際船政所ニ於テ檢印帳ヲ檢査シ本船ニ積載タル產物ノ數量ト差違ノ疑ヒアルモノハ其現品ヲ揚陸セシメテ之ヲ檢査スヘシ

第四條 各港津ニ於テ定メタル波止場ト雖トモ總目

録及検査帳ニ記載セサル貨物ヲ積卸スルモノ或ハ  
許可ヲ得スシテ波止場外ノ海岸ニ於テ積卸シ及船  
移シスルモノ等北海道諸産物ハ出港税則第十條其  
他ノ物品ハ同十二條ニ掲載セル科料ヲ徴収スヘシ

○船税規則 本朝民鑑附録 卷ノ一ニ掲ク

(参考) 明治十一年二月十五日 太政官第四號布告

船車賣藥牛馬賣買等税納期左ノ通明治十一年施行候  
條此旨布告候事  
但從前布告違中此布告ニ矛盾スル條目ハ總テ廢止  
心得ヘシ

一 船商船等車賣藥牛馬賣買等ノ税金前半年分ハ一  
月三十一日限後半年分ハ七月三十一日限其管轄  
廳へ可相納事

但船税ノ内新規合船六月以前ニ係ル者ハ壹年  
分七月以後ハ半年分解船破船六月以前ニ係ル  
者ハ半年分七月以後ハ一年分納税スヘキ事

(参考) 明治十一年二月二十八日大藏省乙第十號ヲ以府縣へ達

船車賣藥牛馬賣買等税金納期ノ儀今般第四號ヲ以テ  
公布相成候ニ付本年半年分收入方ハ左ノ通可相心得  
此旨相達候事  
一 牛馬税

右ハ本半年分ハ従前ノ日限通リ收入不苦候事  
一車稅賣藥稅

右ハ本半年分ハ六月迄適宜月割ヲ以テ毎月收入取  
計不苦事

一船稅

右ハ本年一月ヨリ六月迄ノ分ハ會計年度十年分ハ  
編入致シ右以後其年七月ヨリ翌年六月迄ノ分ヲ其  
年分ハ編入可致事

但商船鑑札再渡書換手數料仕譯書ハ船稅帳ハ編  
入致シ本年一月ヨリ六月迄ノ分別帳ニ製シ七月  
三十一日限リ該廳差立右以後ハ其年七月ヨリ翌  
年六月迄一個年分七月三十一日限リ差立租稅局

ハ可差出事

(參考) 明治十一年三月九日東京府乙第六號  
ヲ以伊豆國七島ヲ除ク區戶長ハ達

船車并賣藥其他牛馬賣買等稅金納期ノ儀ハ本年第四  
號ヲ以テ公布相成候ニ付テハ諸車賣藥稅ノ儀ハ本年  
前半期分ニ限リ當三月ヨリ來ル六月迄四個月ニ割合  
毎月徵收シ七月以後ヨリ成期ノ通リ半期分取選メ一  
時徵收候條該營業人ハ告示及フヘシ此旨相達候事

(參考) 明治十一年六月廿七日東京府  
乙第十七號ヲ以テ區務所ハ達

船稅收入方ノ儀是迄本人ヨリ直ニ當廳ハ收納致來リ  
候處本年下半年分ヨリ各區務所ニ於テ(本年二月十六  
日迄ニ本年分

船稅規則

金額既納齊別紙日割ノ通取纏々速ニ當廳へ納付可  
ノ者ヲ除ク致此旨相達候事

日割

七月一日

第一大區

四五六七八九小區

同 二日

十小區

同 三日

十一十二二十三十四十五

同 四日

小區

同 五日

第二大區

十六小區

同 六日

第三大區

一小區ヨリ十二小區迄

同 六日

四五六小區

同 六日

第四大區

同 六日

二三四五八九十十一小區

同 六日

第五大區

同 六日

一二三四五六八九十一

同 六日

小區

第六大區

同 八日

一小區

同 九日

同

同 十日

二三小區

同 十一日

四五小區

同 十二日

六七八小區

船稅規則



同 十三日

第七大區

一二小區

同 三小區

大井村町共

大森村不入斗村

同 十五日

同 十六日

同 十七日

同 十八日

同

同

同 四小區

羽根田村獵師町共

麴谷村

同 十九日

同 二十日

同

五七小區

同 日

第九大區

二三五六小區

第十一大區

二小區

第十六大區

一三四五六小區

同 廿三日

第十一大區

一小區

三小區

四小區

五小區

同 廿四日

同 廿五日

同 廿六日

同 廿七日

同 廿九日

同

船稅規則

同 三十日  
同 卅一日

六小區  
同

○車稅規則 本朝民鑑附錄 卷ノ一ノ掲シ

(參考) 明治九年四月二十八日太政官  
第四十四號ヲ以使府縣へ達

皇族并ニ各官廳所用ノ諸車從前府縣稅徵收不相成候  
處自今 御車ヲ除クノ外ハ徵收致シ不苦候條此旨相  
達候事

(參考) 明治九年四月二十八日太政官第  
四十五號ヲ以院省使廳府縣へ達

皇族并ニ各官廳所用ノ諸車從來府縣稅徵收不相成候

處自今 御車ヲ除クノ外ハ徵收致シ不苦旨今般第四  
十四號ノ通相達候條此旨可相心得事

(參考) 明治九年八月十四日太政官  
第八十一號ヲ以使府縣へ達

本年四月第四十四號ヲ以テ官車課稅ノ儀相達置候處陸  
海軍省軍事用車輛ハ課稅相除キ可申此旨更ニ相達候  
事

(參考) 明治十年十月十一日東京  
府番外ヲ以テ區戶長へ達

車稅上納方ノ儀期限遷延及ヒ候テハ計算上差支不勘  
且今般大藏省達ノ趣モ有之候ニ付テハ自今精々注意  
取纏メ其月取立ノ分翌月三日限リ無遲滯當廳租稅課

車稅規則

～上納候様可取計此旨相達候事

(参考) 明治十一年三月九日東京府乙第六號

本年第四號公布ヲ以テ車稅徵收期限改正相成候ニ付  
ヲハ自今諸車新調檢印願出候節ハ直ニ該半年度ノ稅  
金區務所へ收入ノ上與印致スヘク此旨相達候事

但本年一月以降既ニ檢印濟ノ分ハ即今徵收致スヘ  
キ事

(参考) 明治十一年七月十五日大藏省

乙第三十五號ヲ以テ府縣へ達  
車稅規則中荷積車ノ儀ハ荷臺全ク荷物ヲ積ノ縱橫相  
乘尺積リ十四坪以上ヲ以テ大七車以上トシ右未滿ヲ

以テ中小車以下六ト相心得更ニ區別可致此旨相達候事

(参考) 明治十一年二月十五日

(参考) 日太政官第四號布告

(参考) 明治十一年二月廿八日大藏省

(参考) 乙第十號ヲ以テ府縣へ達  
乙第十七號ヲ以テ區務所へ達  
右三件船稅規則ノ部へ掲  
クムヲ以テ此所ニ零ス

○煙艸稅則 本朝民鑑附錄 卷ノ一へ掲ク

(参考) 明治十年十二月七日大藏省甲第三十四號布達

煙草卸賣小賣兼業ノ者ト雖モ製造煙草ヲ店頭へ展示  
スル上ハ總テ印紙貼用致置可申此旨布達候事

煙艸稅則

(參考) 明治十年十二月十一日東京府乙

第九十八號ヲ以テ區長ハ達  
証券印稅規則中ニ揭ス

○証券印稅則 本朝民鑑附錄 卷ノ一ニ揭ク

(參考) 明治九年七月四日太政官第六

十八號ヲ以テ院省使廳府縣ニ達  
明治七年十二月百七十五號ヲ以テ証券印稅規則中帳

簿調査ノ儀相達置候處明治九年以後モ尙又右達ノ趣  
旨ニ依リ取扱可致此旨相達候事

(參考) 乙 明治十年十二月十一日東京府

第九十八號ヲ以テ區長ハ達  
酒類稅煙草証券印紙稅等脱漏取締ノメ大藏省租稅

局員時々巡廻調査可相成筈其筋ヨリ達有之候ニ付テ  
ハ豫テ右營業者ニ諭達及ヒ置クニ此旨相達候事

○酒類稅則 本朝民鑑附錄 卷ノ一ニ揭ク

(改正) 明治十年十二月五日太

政官第八十一號布告  
明治八年二月二十六號布告酒類稅則中左ノ通改正追

加候條此旨布告候事

一 濁酒釀造營業ノ者ハ免許鑑札申受ケ營業稅每一期

ニ付金五圓釀造稅賣捌代價二十分ノ一付金一圓ニ

年々上納可致事

一 酒類請賣營業ノ者從來卸小賣ヲ論セス金五圓ツ、

証券印稅則 酒類稅則